

「学び直し」についての調査報告書

—不登校・引きこもりを経験した若者への適切な学習支援とは—

作成：特定非営利活動法人キズキ

後援：日本興亜おもいやりプログラム

「学び直し」についての調査報告書

目次

1. 「学び直し」を希望する若者と、その社会状況

1-1. 不登校・引きこもり

①不登校・引きこもりの定義

②不登校・引きこもりはどれくらいの人数いるのか

1-2. 中退

①中退者はどれくらいの人数いるのか

②中退者のその後の足取り

1-3. 転学

1-4. ブランクからの学び直し

①社会人の学び直し

②ブランクからの学び直し

1-5. 学び直しと社会状況

1-6. 発達障害

1-7. 参考文献

2. 「学び直し」とその困難

2-1. 調査概要

2-2. データ概要

2-2-1. 全体の概要

2-2-2. 不登校・引きこもり経験者のデータ概要

①不登校・引きこもりの経験の有無

- ②不登校・引きこもりを経験した時期
- ③不登校・引きこもりを経験した期間の長さ
- ④回答者が現在どのような状態にあるのか

2-2-3. 中退した経験者のデータ概要

- ①中退経験の有無
- ②中退を経験した時期

2-2-4. 転学経験者のデータ概要

- ①転学経験の有無
- ②転学を経験した時期
- ③転学をした理由

2-2-5. ブランク後の学び直しについて

- ①ブランク後学び直した経験の有無
- ②最後に卒業した学校機関の種類

2-3. 不登校・引きこもり経験からの学び直し

- ①不登校・引きこもりとなった理由
- ②選ばれた学習方法の種類
- ③学習方法を選んだ理由
- ④選んだ学習方法の成否
- ⑤成否の理由(選択)
- ⑥成否の理由(自由記述)
- ⑦不登校・引きこもり期間の長さと学習方法の成否の関係

2-4. 中退からの学び直し

- ①中退した理由
- ②選ばれた学習方法の種類
- ③学習方法を選んだ理由
- ④選んだ学習方法の成否
- ⑤成否の理由(選択)
- ⑥成否の理由(自由記述)

2-5. 卒業後ブランクからの学び直し

- ①選ばれた学習方法の種類

- ②学習方法を選んだ理由
- ③選んだ学習方法の成否
- ④成否の理由(選択)
- ⑤成否の理由(自由記述)

2-6. 学び直し全般

- ①選ばれた学習方法の種類
- ②学習方法を選んだ理由
- ③選んだ学習方法の成否
- ④成否の理由(選択)
- ⑤学習方法の選択と成否の関係
- ⑥自由記述から見えるもの

2-7. 学び直しの選択肢

2-7-1. 高卒認定資格

- ①資格取得率・取得年齢

2-7-2. 文理選択

- ①文理選択の比率・理由
- ②文理選択の学び直しに与える影響

2-7-3. 進学先

- ①入学先の国立/私立/公立別

2-8. 家庭や小中学生時の成績の影響

2-8-1. 小中学生時の成績の分布

2-8-2. 小中学生時の成績の影響

- ①小学校の成績と学び直し
- ②中学校の成績と学び直し

2-8-3. 親の職業

2-8-4. 親の学歴の分布

2-8-5. 親の学歴の影響

- ①父親の学歴と学び直し
- ②母親の学歴と学び直し

3. 学び直しのシナリオ特集-こうして若者たちは学び直した-

3-1. データからは見えてこない、学び直しの軌跡

3-2. 不登校・引きこもりからの学び直し

[Aくん：引きこもりを経て、現状を変えようと塾へ。]

3-3. 中退からの学び直し

[Bくん：疲労性の体調不良から中退。徐々に体調を治し、受験を決意]

3-4. 社会人からの学び直し

[Cさん：大学卒業後仕事に就くもコンプレックスから、再受験]

[Dくん：無気力な中、勉強もほとんど手につかず高校卒業から1年半経過]

4. 求められる教育支援方法とは

4-1. 気をつけるべき点

4-1-1. 学び直し希望者に学習支援機関へコンタクトをとってもらうために

4-1-2. 学習支援機関の選択について

4-1-3. 学習支援時の注意点

- ①居場所をつくる
- ②生徒の焦りと、うまく付き合い、一人ひとりのペースに合わせて学習指導をする
- ③授業のレベル・スピード・内容・宿題量
- ④自宅での学習
- ⑤モチベーション
- ⑥家族への働きかけ

4-2. 他機関との連携

- ①フリースペース
- ②医療機関

1. 「学び直し」を希望する若者と、

その社会状況

1-1. 不登校・引きこもり

不登校・引きこもりを経験したものの、もう一度勉強して大学に行きたい等、学び直しを希望する人々がいます。

①不登校・引きこもりの定義

行政による不登校・引きこもりの定義は下記の通りです。

不登校：	年間 30 日以上欠席した児童生徒のうち、病気や経済的な理由を除き、「何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、登校しないあるいはしたくともできない状態にある者(文科省児童生徒課「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」より)
引きこもり：	仕事や学校にいかず、かつ家族以外の人とほとんど交流せずに 6 ヶ月以上続けて自宅に引き籠っている状態。(厚労省「政策レポート ひきこもり施策について」より)
準引きこもり：	ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する(内閣府「平成 25 年版 子ども・若者白書」より)

引きこもりについては、近年その行動や外出範囲の多様性を踏まえて「準ひきこもり」という概念も用いられるようになりました。その場合、「引きこもり」の欄に記載した定義を狭義の引きこもりと呼び、「引きこもり」の定義と「準引きこもり」の定義を合わせて広義の引きこもりと呼びます。人数も狭義・広義の引きこもり両方だされる場合があります。

②不登校・引きこもりはどれくらいの人数いるのか

不登校：	小・中学校における、不登校児童生徒数は約 11.7 万人。 高等学校における、不登校生徒数は約 5.6 万人。（文部科学省「平成 23 年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」について」より）
引きこもり：	狭義の ひきこもり 23.6 万人 (内閣府「平成 25 年版 子ども・若者白書」より)
準引きこもり：	準ひきこもり 46.0 万人(出典同上)

1-2. 中退

学校を中退したものの、もう一度勉強したいと望む若者がいます。

①中退者はどれくらいの人数いるのか

高校中退者の数は下図の通りです（「高校生の不登校・中途退学の現状等」より）。

	全日制								定時制		計	
	普通科		専門学科		総合学科		計					
	中途退学者数 (人)	中途退学者率 (%)	中途退学者数 (人)	中途退学者率 (%)	中途退学者数 (人)	中途退学者率 (%)	中途退学者数 (人)	中途退学者率 (%)	中途退学者数 (人)	中途退学者率 (%)	中途退学者数 (人)	中途退学者率 (%)
1年生	14,258	1.8	7,227	2.9	578	2.7	22,063	2.1	4,260	21.3	26,323	2.5
2年生	8,747	1.2	4,099	1.7	363	1.8	13,209	1.3	1,616	10.8	14,825	1.5
3年生	2,774	0.4	1,202	0.5	192	1.0	4,168	0.4	790	6.3	4,958	0.5
4年生	-	-	-	-	-	-	-	-	332	4.1	332	4.1
単位制	1,205	1.0	179	1.2	1,468	1.5	2,852	1.2	6,125	10.2	8,977	3.1
計	26,984	1.1	12,707	1.7	2,601	1.6	42,292	1.3	13,123	11.3	55,415	1.6

どの科でも高校 1 年時の中退が最も多いことが分かります。

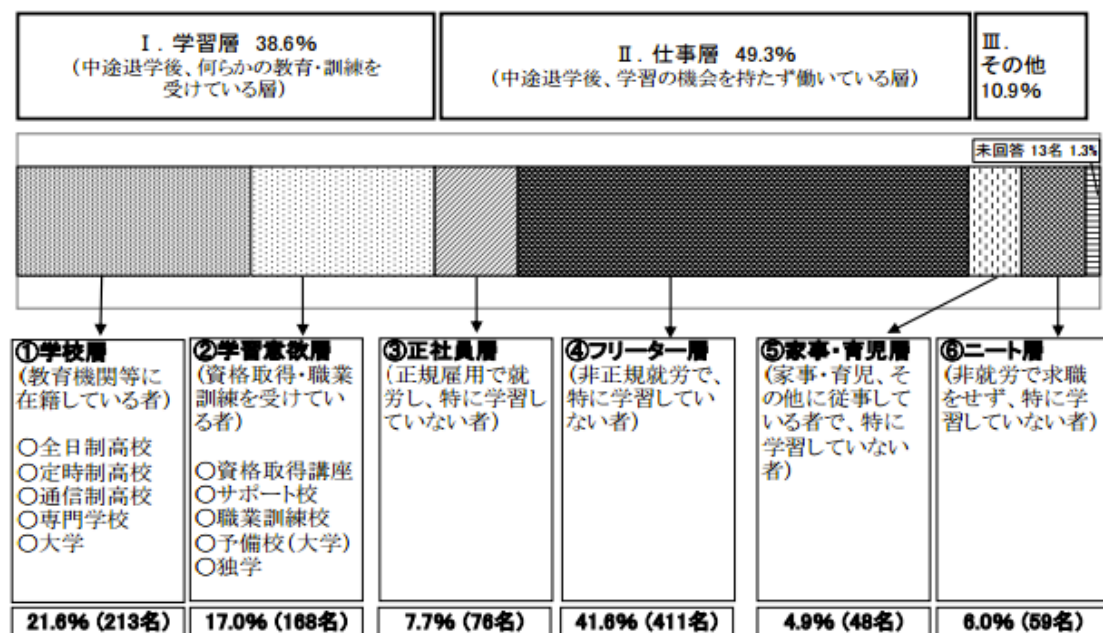
また、中退者の数は普通科が、中退者率は定時制が最も多くなっています。

②中退者のその後の足取り

中退者については、内閣府が平成 23 年度に行った「若者の意識に関する調査（高等学校中途退学者の意識に関する調査）」にて非常に詳しく調査されています。

また、平成 25 年に発表された「都立高校中途退学者等追跡調査報告書」では、中退後何らかの形で勉強に関わっている「学習層」が見出されました。

図表5 中途退学者の類型別内訳



1-3. 転学

転学は「いじめなどを理由に行われる行動」として認識されてはいるものの、上述した不登校・引きこもりや中退とは異なり、問題行動であるという認知はそれほど一般的ではありません。しかし、本来であれば中退する層が、通信制高校などに転学することによって問題の存在が見えづらくなっている可能性があります。

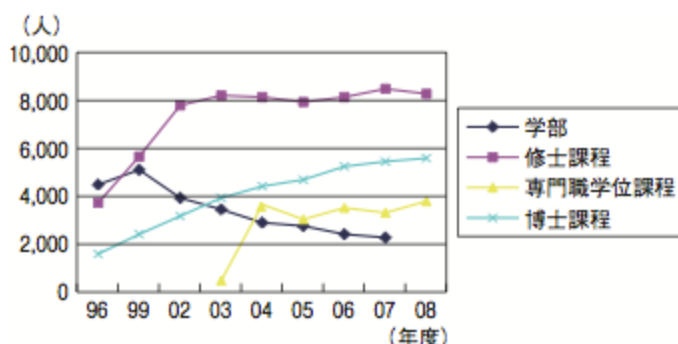
そのため、不登校・引きこもりや中退だけでなく、転学にも着目すべきだと考えています。今回の調査でも、転学の有無/理由について質問しました。

1-4. ブランクからの学び直し

①社会人の学び直し

いったん働きに出た後、学び直そうとしている人数は下図の通りです(「社会人の学び直しの動向 ―社会人大学院を中心に―」より)。学部への社会人の入学者は減少傾向にあるものの、一定数(2,000人～6,000人)は存在しています。

図4 「社会人入学者数の推移」

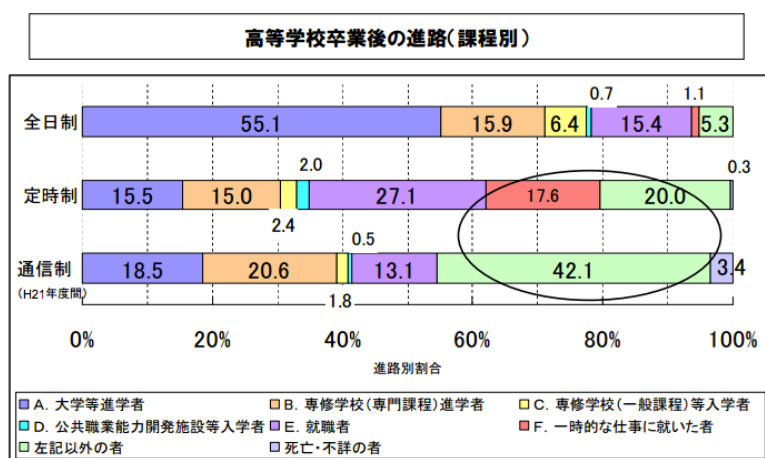


(注) 学部入学者数は各年の『大学資料』による。他は各年の『学校基本調査報告書―高等教育機関編―』(平成20年度は『学校基本調査速報―学校調査・卒業後の状況調査―』)による。

(出典) 出相泰裕「成人の大学入学の現状と課題」『大学と学生』55号, 2008.6を参考に筆者補足。

②ブランクからの学び直し

学校機関を卒業した後、無業やフリーターを経験した後などに、学び直しを希望する人がいます。例えば、通信制高校の場合、卒業後進路未決定である割合が多いため、学び直しの需要が一定以上あると存在する可能性があります。



※全日制及び定時制課程については各年5月1日現在の状況を、通信制課程においては当該年度間の卒業生についての状況についての集計。
 ※「左記以外の者」とは、家事手伝いをしている者、外国の高等学校に入学した者又はA～Fの各項目に該当しない者で、進路が未定であることが明らかな者をいう。ただし、通信制においては「一時的な仕事に就いた者」という調査項目はない。

(出典) 文部科学省「学校基本調査(平成22年度)」

1-5. 学び直しと社会状況

学び直しの動機付けは、人それぞれ多様でしょう。

しかしながら、客観的な学び直しの必要性であれば、労働市場という観点から指摘されています。例えば、高橋陽子と玄田有史は「中学卒・高校中退と労働市場」の中で、以下の3つを指摘しています。

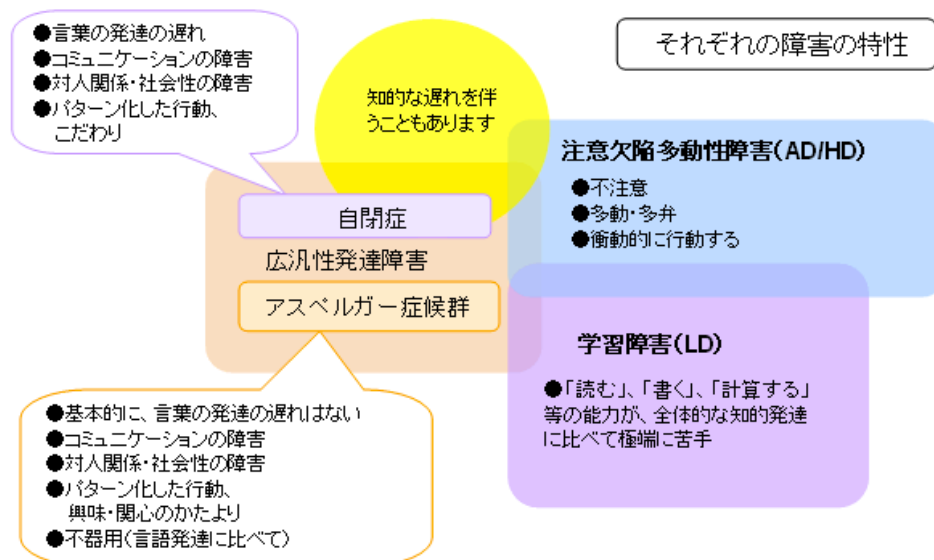
- ① 中学卒、高校中退者は卒業後就業に困難を抱える。
- ② 一方で、一旦就業した後の、就業年数には中卒・高校中退者とその他で差はない。
- ③ 「能力が低い」「どうせすぐにやめるべき」という先入観が
中卒・高校中退者を不利な状況に置いている可能性がある

このことは、不登校・引きこもりや中退経験者の学び直しの必要性を示唆していると言えます。

1-6. 発達障害

発達障害の定義としては、例えば下記があります。

「自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能障害であってその症状が通常低年齢において発現するもの」（出典：厚生労働省 政策レポート、下図も出典同じ）



※「広汎性発達障害」という呼称の代わりに、「自閉症スペクトラム障害」を用いる場合もあります。

上述した発達障害の人は、かなり多く存在すると考えられており、例えば厚生労働省 HP には下記のような推計も掲載されています。

- ・ 自閉症スペクトラム障害：最近では約 100 人に 1～2 人存在すると報告されている
- ・ 注意欠如・多動性障害 (ADHD)：(学童期の子どもには)3～7%存在
- ・ 学習障害 (LD)：(確認の方法にもよるが有病率は)2～10%と見積もられてる

発達障害の人に対しては、丁寧な本人に合わせた指導が必要であり、文部科学省から通達も出ています。しかし、対応が必要な生徒の内 4 割近くには学校で特別対応がなされていないなど(出典:文部科学省調査)、支援体制がまだ十分とは言えない状況のようです。

学校ではうまく学ぶことの出来なかった彼らに対する学習支援も、学び直し支援として重要だと考えられます。

1.7 参考文献

■平成 23 年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」について
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/24/09/__icsFiles/afieldfile/2012/09/11/1325751_01.pdf

■厚労省「政策レポート ひきこもり施策について」
<http://www.mhlw.go.jp/seisaku/2010/02/02.html>

■平成 25 年版 子ども・若者白書 > 第 2 節 若年無業者，フリーター，ひきこもり
http://www8.cao.go.jp/youth/whitepaper/h25honpen/b1_04_02.html

■若者の意識に関する調査（高等学校中途退学者の意識に関する調査）
<http://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/school/kaisetsu.html>

■高校生の不登校・中途退学の現状等
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/047/siryo/__icsFiles/afieldfile/2012/03/21/1318690_02.pdf

■「都立高校中途退学者等追跡調査」 報告書

<http://www.metro.tokyo.jp/INET/CHOUSA/2013/03/DATA/60n3s302.pdf>

■いじめの問題に関する児童生徒の実態把握並びに教育委員会及び学校の取組状況に係る緊急調査

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/24/11/__icsFiles/afieldfile/2012/12/09/1328532_01_1.pdf

■社会人の学び直しの動向 ―社会人大学院を中心にして―(戸澤幾子)

http://www.ndl.go.jp/jp/data/publication/refer/200812_695/069504.pdf

■中学卒・高校中退と労働市場(高橋陽子・玄田有史)

http://ci.nii.ac.jp/els/110004633709.pdf?id=ART0007347847&type=pdf&lang=jp&host=cinii&order_no=&ppv_type=0&lang_sw=&no=1383215765&cp=

■政策レポート 発達障害の理解のために(厚生労働省)

<http://www.mhlw.go.jp/seisaku/17.html>

■「知ることからはじめよう みんなのメンタルヘルス」(厚生労働省)

http://www.mhlw.go.jp/kokoro/know/disease_develop.html

■通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について(文部科学省)

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/__icsFiles/afieldfile/2012/12/10/1328729_01.pdf

2. 「学び直し」とその困難

2-1. 調査概要

特定非営利活動法人キズキは高校受験・高卒認定試験・大学受験のための学習教室を運営し、不登校や引きこもりなどを経験しながらも受験を通じて環境を変えたいと考えている人の学習支援を行っています。本調査では、学習教室の生徒、卒業生、講師の内、下記のいずれかに該当する人を対象として「過去に行った、または現在行っている学習方法」について質問しました。

- 1：1-1 に記載した不登校・引きこもりの定義に、過去または現在該当する者
- 2：中退を経験した者
- 3：転学経験のある者
- 4：学校機関を卒業後 1 年間以内に別の学校機関に入っていない。

かつ、卒業後 1 年間以上経過した後に、別の学校機関に入学した、または入学するために勉強している。

生徒への質問と、講師・卒業生への質問は別の方法で行いました。生徒には紙の質問票を配布し、その場または帰宅後に記載してもらい回収しました。卒業生・講師には、質問票のウェブ版のリンクをメールで送り、回答してもらいました。人数等のデータの概要は後述する通りです。

※少サンプル調査の意義と限界について

本調査の対象数は 30 人です。少サンプル調査の意義と限界について、下記のように考えて実施しました。

①意義

* 大きな調査に向けての仮説形成

・ 仮説形成

大人数に対する調査は、大量のコストがかかるため、何の仮説もなく闇雲に行うことは出来ません。小規模調査をまず実施することで、大規模な調査を行わない/行えない状態でも、仮説を形成することが出来ます。

・ 注意点や言い回しなどの蓄積

調査法については数々の研究が行われていますが、具体的な調査法は対象者やテーマによって調整する必要があります。また、行おうと考えている質問

について、分かりづらと思われる語句や聞き方を調整することができます。

＊調査結果の積み重ねによる、実態把握

・絶対的な調査の困難さ

調査対象としたい人々の全員に質問する、または全員のリストをもとにランダムにピックアップした人に質問できるのがベストです。しかしながら、例えば日本全国の引きこもりの人のリストは手に入るはずありません。

そのため、実態把握のために可能な作業としては、ある程度の母集団に言えることを積み重ねていくしかありません。

まだ、学び直しについては、あまり調査が行われていないこともあり、本調査は少サンプルながらも、上記の流れに沿うものである、という点で意義があるのではと考えております。

②限界

＊サンプルの偏り

本調査は、調査実施団体(特定非営利活動法人キズキ)の運営する学習塾の生徒・卒業生・講師を対象として質問がなされました。そのため、サンプルの回答が偏っている可能性は多分に存在しています。

＊一般的な傾向については言及できない

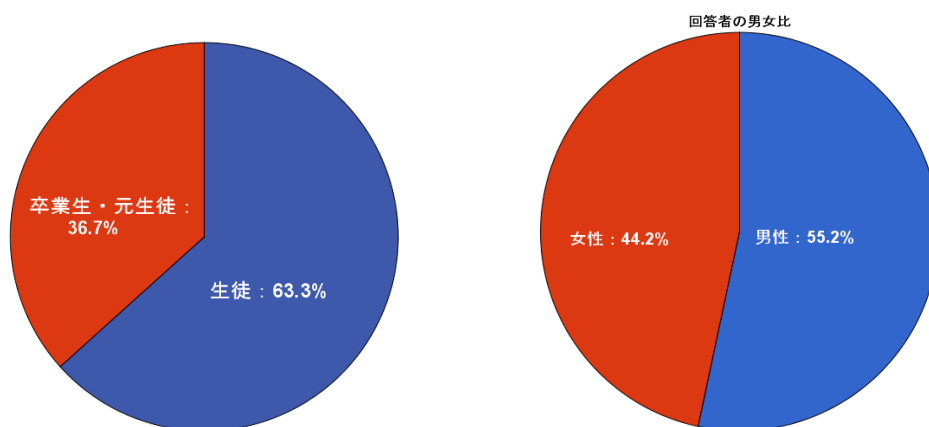
少サンプル調査であるため、統計的な検定によって、調査の結果の値が誤差によるものなのか、それとも一般性をもつ値なのか、等を検討することは出来ていません。

2-2. データ概要

2-2-1. 全体の概要

①回答者の構成：生徒 19 名， 卒業生・講師 11 名

②男女比：男性16名，女性14名



不登校・引きこもりからの「学び直し」の定義は難しいですが、暫定的に 3 通り考えられます。

- 1：なんらかの勉強をしている
- 2：現在の勉強方法がうまくいっている（受験の時期がくれば定義 3 を満たす）
- 3：不登校・引きこもり状態から勉強を行い、受験に合格。環境を変えた。

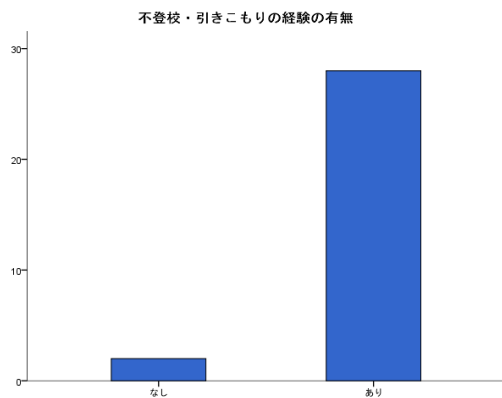
今回の調査は、下記のように実施しました。

定義 1・定義 2 は、選択した学習方法がうまくいっているかの質問を通じて測りました。
また、定義 3 は、回答者が生徒(=現在も学習中)か、卒業生・講師(=受験終了)かを通じて、把握しています。

2-2-2. 不登校・引きこもり経験者のデータ概要

①不登校・引きこもりの経験の有無

→不登校・引きこもり経験有りと答えた人が 28 人いました。



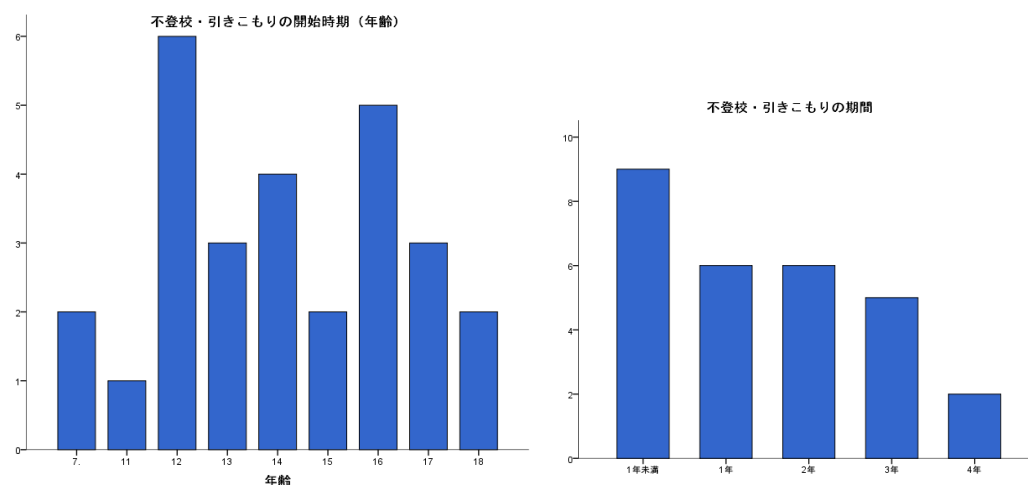
不登校・引きこもりを経験した後、学び直した/学び直そうとしている人が、今回の調査の主な対象者となっています。彼・彼女らの学習方法の選択や、その成否について質問がなされました。

※残りの 2 人は、不登校・引きこもりを経験せず、社会人経験後学び直しを希望したケースです。本調査のサブタイトルは「不登校・引きこもりを経験した若者への適切な学習支援とは」ですが、多様な学び直しの形態について概観するために、この 2 人も分析対象として含めています。

※中退した後の引きこもりや、学校機関からの卒業後の引きこもりについては、「中退」「卒業後ブランク」の項目で質問しています。本項目では「学校期間に在籍中に、風邪などの病気などの理由を除いて、行かなかった期間」があり、その期間が年間 30 日以上の場合、不登校・引きこもりとしています。

②不登校・引きこもりを経験した時期

③不登校・引きこもりを経験した期間の長さ



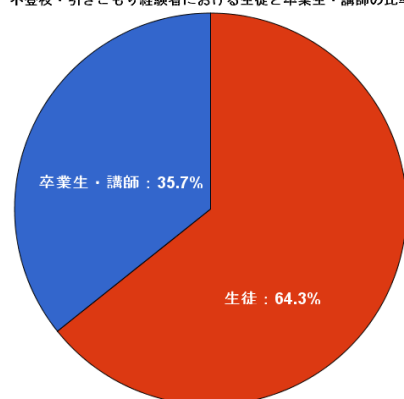
開始時期：12歳、16歳が最も多い結果になりました。これは、中学入学・高校入学時の年齢と重なっています。

注)例えば小学校で2年間、高校で1年間、と別々に引きこもりを経験していた場合は、2回の経験を、別個のものとしてカウントしました。そのため、図中のデータの総数は経験者人数である28人よりも多く、36ケースとなっています。

④回答者が現在どのような状態にあるのか

→生徒18人、卒業生・講師10人となりました。

不登校・引きこもり経験者における生徒と卒業生・講師の比率



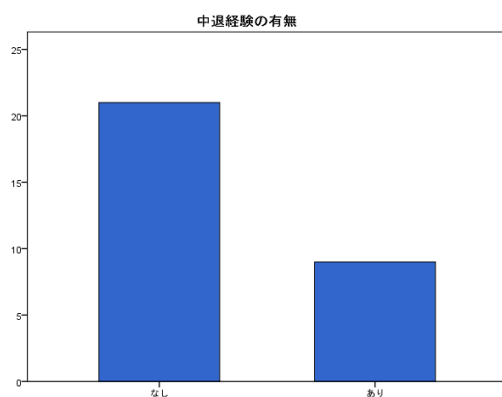
本調査回答者全体の、生徒と卒業生・講師の比率とほぼ同じです。

これは、回答者全体と、不登校・引きこもり経験有りと答えた人がほぼ一致していることによります。

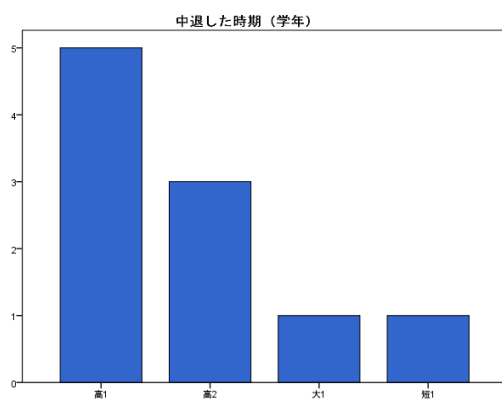
2-2-3. 中退した経験者のデータ概要

①中退経験の有無

→9 人が中退経験ありと回答しました。



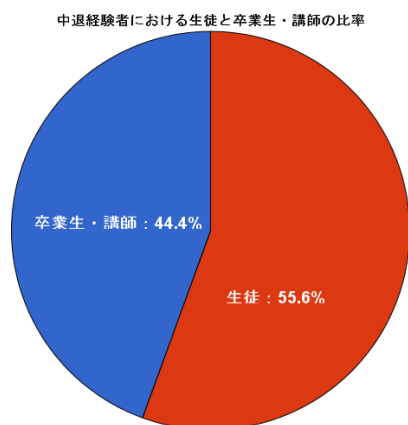
②中退を経験した時期



高1での中退経験が最も高くなっています。これは、不登校・引きこもりの経験が多かった時期と一致します。また、わずかですが大学・短大での中退も回答者に含まれていました。

注) 例えば高校で1回大学で一回と別々に中退を経験していた場合は、2回の経験を、別個のものとしてカウントしました。そのため、図中のデータの総数は経験者人数である9人よりも多く、10ケースとなっています。

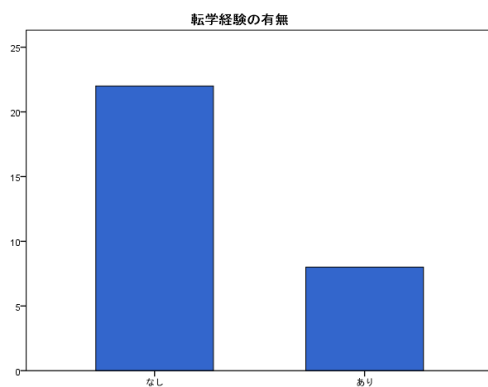
④回答者が現在どのような状態にあるのか
→生徒 4 人、卒業生・講師 5 人となりました。



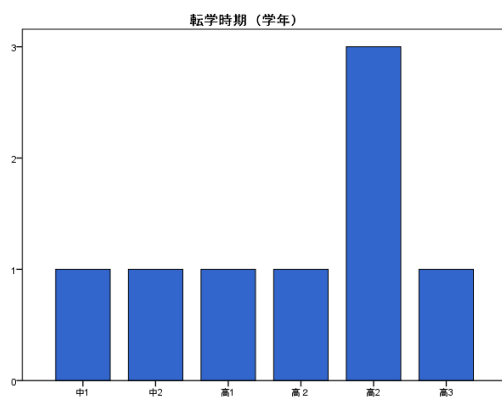
2-2-4. 転学した人について

①転学経験の有無

→9 人が転学経験ありと答えました。



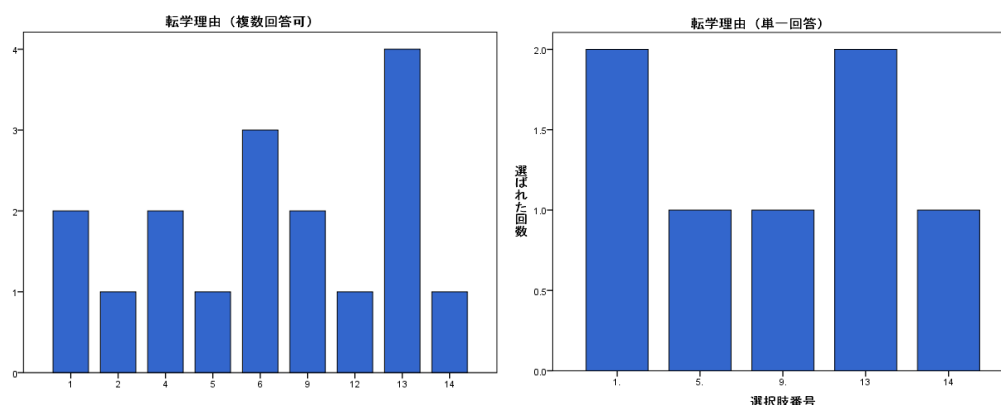
②転学を経験した時期



高 2 での転学経験が最も多くなりました。仮説となりますが、他のデータ(不登校・引

きこもりの時期、転学をした理由)と合わせると、高1の段階で学校に行けなくなり、高2の段階で転学を決意する、という行動が多いのではと考えられます。

③ 転学をした理由



参考：選択番号一覧

- | | | |
|--------------|--------------|------------------|
| 1. 交友関係（いじめ） | 2. 交友関係（疲れ） | 3. 交友関係（トラブル／破綻） |
| 4. 交友関係（孤立） | 5. 部活動でのトラブル | 6. 学校／先生とのトラブル |
| 7. 受験／塾通い疲れ | 8. 家庭問題 | 9. 新しい学校での適応困難 |
| 10. 非行 | 11. 不安感 | 12. 挫折感（入試の失敗など） |
| 13. 学業不振 | 14. 対人恐怖 | 15. 保護者の期待が重い |
| 16. その他 | | |

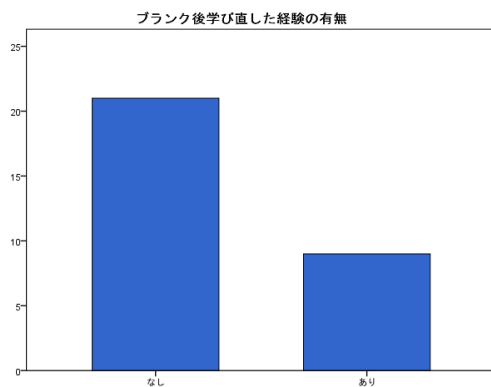
「13. 学業不振」を選択する人が最も多い結果になりました。学校に通えていない、またはその他の要因によって勉強がうまく出来なくなる。その結果学校を転学する、という行動が可能性として考えられます。また、「1. 交友関係(いじめ)」も同様に多く選ばれています。これは第一章で指摘した、学校で問題が発生したものの中退という選択肢を取りたくないために転学を選択する、という行動だと考えられます。

他には、「6. 学校/先生とのトラブル」が複数回答可の時のみ、多く選択されていました。これは、学校/先生とのトラブルが、転学の副次的な理由となっていることを示しています。

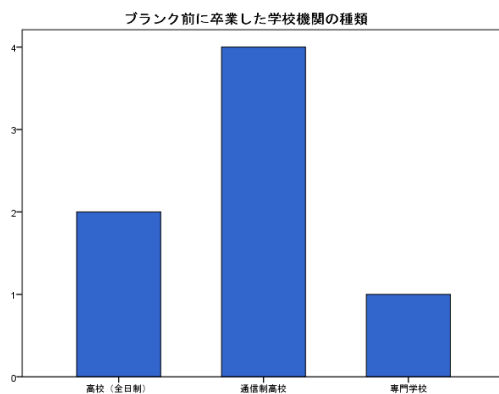
2-2-5. ブランク後の学び直しについて

①ブランク後学び直した経験の有無

→7人が経験ありと答えました。



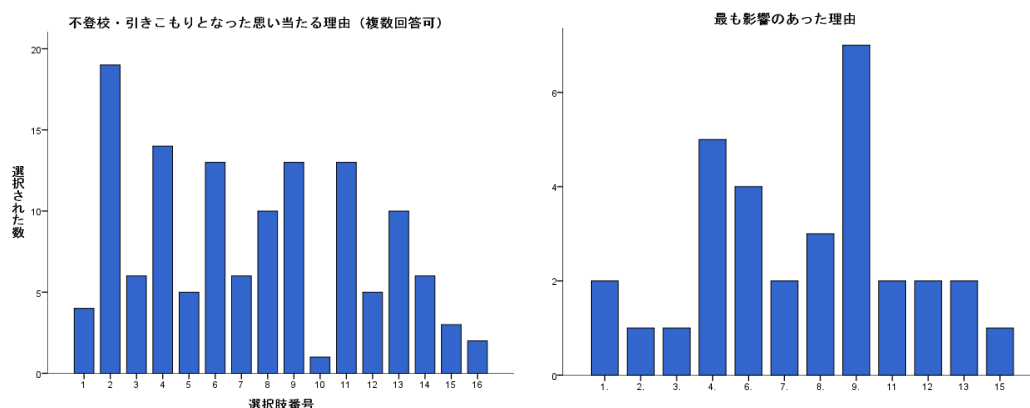
②最後に卒業した学校機関の種類



高校(全日制)・専門学校も選択されましたが、通信制高校が最も多い結果となりました。第1章でデータを参照したように、通信制高校卒業者の中に進路未決定な人が多く含まれています。可能性として、その進路未決定層が、学習・進学希望層となり、「学び直し」支援対象者となっている事が考えられます。

2-3不登校・引きこもり経験からの学び直し

①不登校・引きこもりとなった理由



参考：選択番号一覧

- | | | |
|---------------|------------------|------------------|
| 1. 交友関係（いじめ） | 2. 交友関係（疲れ） | 3. 交友関係（トラブル／破綻） |
| 4. 交友関係（孤立） | 5. 部活動でのトラブル | 6. 学校／先生とのトラブル |
| 7. 受験／塾通い疲れ | 8. 家庭問題 | 9. 新しい学校での適応困難 |
| 10. 非行 | | |
| 11. 不安感 | 12. 挫折感（入試の失敗など） | 13. 学業不振 |
| 14. 対人恐怖 | | |
| 15. 保護者の期待が重い | 16. その他 | |

まず、複数回答可の箇所では130個の選択肢が選ばれていました。上述したように、不登校・引きこもりとなったケース数は36なので、1ケースあたり平均して5個の選択肢を選んだことになります。これは、こちらが用意した選択肢の設計不備の可能性もありますが、不登校・引きこもりの原因が複合的である、という仮説を示唆します。

複数回答可の箇所では「2. 交友関係（疲れ）」が最も多く選ばれ、ついで「4. 交友関係（孤立）」「6. 学校／先生とのトラブル」「9. 新しい学校での適応困難」「11. 不安感」が選ばれました。

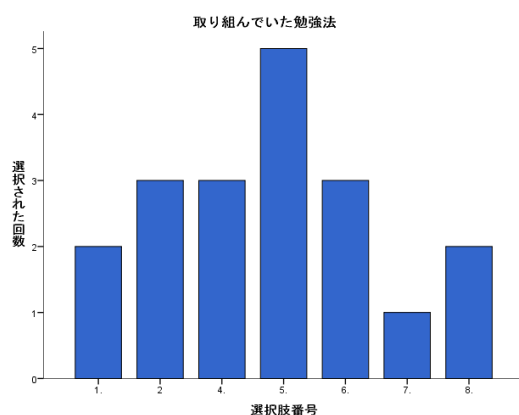
単一回答の箇所では「9. 新しい学校での適応困難」が最も多く選ばれ、ついで「4. 交友関係（孤立）」「6. 学校／先生とのトラブル」が選ばれました。

2-2-2. ②の記載したように不登校・引きこもりとなった年齢は中学・高校の入学時の年齢と重なっています。「9. 新しい学校での適応困難」が最も多く選ばれていることを考えると、不登校・引きこもりの数を減らすためには、入学初年度のケアが最も重要である、という仮説が示唆されます。

また、転学理由と同様に「6. 学校/先生とのトラブル」が、不登校・引きこもりの原因となっていることは注目すべきだと言えます。このことは、学校/先生の配慮や対応によって、不登校・引きこもりの数を減少させる事ができる可能性を示しています。(本調査では、具体的なトラブルの内容までは聞いていません。そのため具体的な提言のためには、他の調査でどのようなトラブルがあるのか、具体的に調べる必要があります。)

②選ばれた学習方法の種類

不登校・引きこもりを経験した36ケースのうち、なんらかの方法(含む自習)していた人は19ケースいました。



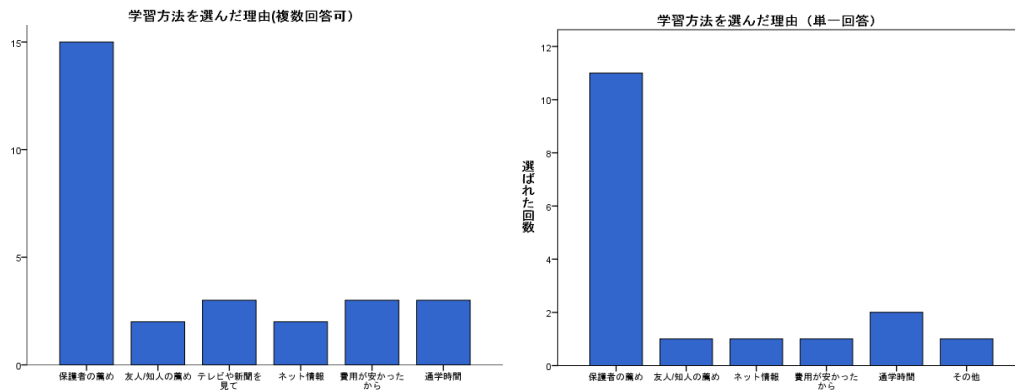
参考：選択肢一覧

- | |
|---|
| 1. 自宅学習 2. 中退・不登校者向け個別指導塾 3. 中退・不登校者向け大人数指導塾
4. 一般個別指導塾 5. 一般大人数指導塾 6. 通信教育 7. フリースクール
8. 家庭教師 9. その他 |
|---|

「5. 一般大人数指導塾」が最も多く選択され、ついで「2. 中退・不登校者向け個別指導塾」「4. 一般個別指導塾」「通信教育」が選ばれました。

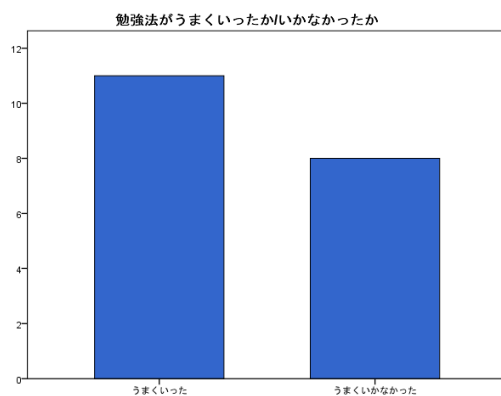
※上述したように、今回の調査の対象者は、調査実施団体(特定非営利活動法人キズキ)の運営する中退・不登校者向け個別指導塾の生徒・卒業生・講師が中心になっています。そのため、「2. 中退・不登校者向け個別指導塾」の値の大きさは多分にバイアスがかかっています。(以下、他の回答でも同様)

③学習方法を選んだ理由



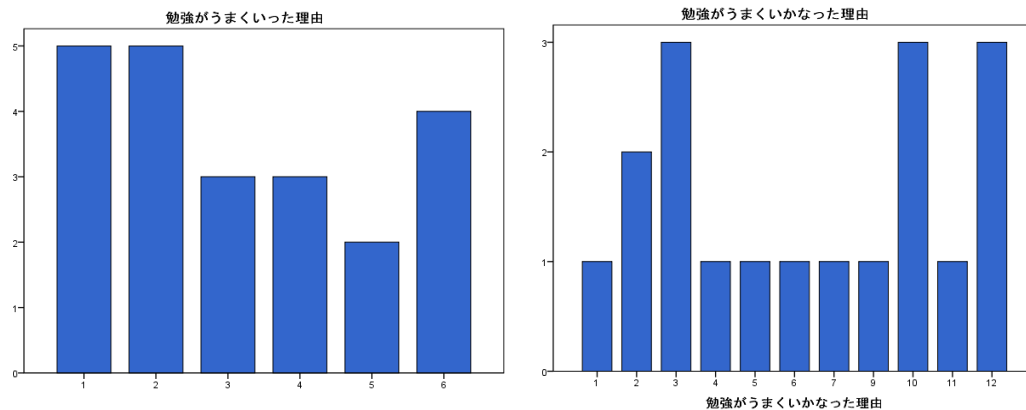
複数回答可、単一回答いずれの場合でも保護者の薦めが学習方法を選んだ理由となっている。不登校・引きこもり経験者に、学習方法を選んでもらうためにはまずは第一に保護者にアプローチすべきである、という仮説が示唆されます。

④選んだ学習方法の成否



学習方法への取り組みは19ケースの中、11ケース成功し、8ケースは失敗したと答えました。

⑤成否の理由(選択)



参考：「勉強がうまくいった理由」選択肢一覧

(塾等の学習機関で)

- | | |
|----------------------|------------------|
| 1. 自分に合わせて勉強法を考えてくれた | 2. 宿題の量が丁度良かった |
| 3. 授業のスピードを調整してくれた | 4. 授業のレベルが丁度良かった |
| 5. 通うための場所が近かった | 6. 講師に質問しやすかった |

参考：「勉強がうまくいかなかった理由」選択肢一覧

(塾等の学習機関で)

- | | |
|------------------------|------------------------|
| 1. 自分に合わない勉強法を押し付けられた | 2. 宿題の量が多すぎた |
| 3. 授業のスピードが遅すぎた/早すぎた | 4. 授業のレベルが高すぎた/低すぎた |
| 5. 先生が合わなかった | 6. 先生に叱責されて勉強するのが嫌になった |
| 7. 講師に焦らされ、勉強するのが嫌になった | 8. 通うための場所が遠すぎた |
| 9. 通うための場所が近かった | 10. やる気がでなかった |
| 11. 講師に質問しづらかった | |

(自宅学習で)

- | | |
|---------------------|-----------------|
| 12. 勉強の仕方がよく分からなかった | 13. 自習時間をとれなかった |
|---------------------|-----------------|

うまくいった理由をみると、「1. 自分に合わせて勉強法を考えてくれた」「2. 宿題の量が丁度良かった」が最も多く選ばれ、ついで「6. 講師に質問しやすかった」が選ばれています。

うまくいかなかった理由を見ると、「3. 授業のスピードが遅すぎた/早すぎた」「10.

やる気がでなかった」「12. (自宅で)勉強の仕方がよく分からなかった」が最も多く選ばれ、ついで「2. 宿題の量が多すぎた」が選ばれました。

以上から、不登校・引きこもり経験者への適切な学習支援方法として、下記の仮説が示唆されます。

- 1：授業のスピード・レベル・内容・宿題量を生徒に合わせて調整する。
- 2：自宅での勉強の仕方を細かく指示する。
- 3：生徒の勉強へのモチベーションの維持を重要課題として対応する。

⑥成否の理由(自由記述)

学習方法の成否の理由として、思い当たる事を自由記述してもらいました。回答を、学習方法毎に掲載しています。※回答は基本的に原文のまま掲載していますが、明確な誤字脱字については修正しました。また、学習方法ごとに掲載する都合上1つの文章を2つ以上に分けた場合があります。

うまくいった理由	
一般向け 大人数指導塾	・ 有名大手集団塾ということもあり、カリキュラムが非常に充実していて安心感があった。さらに大手であったにも関わらず、先生が個別に面談を頻繁に行なったり、駅まで送り迎えしてくれるなど、面倒見が非常によく、単純に楽しかった。このことはわたしと先生との信頼関係の構築にも役立った。 ・ 自分自身、勉強を強制されると行き詰りつぶれてしまう。宿題が少なく、物理的にも精神的にも余裕がキープできたからうまくいったと思う。わからないところは納得できるまで先生に質問して聞く、マイペースに勉強をすすめられたのが良かった。
不登校・中退者向け 大人数指導塾	・ 勉強の習慣がついた。ペースメーカーになってくれた。
一般向け 個別指導塾	・ 個別なので分からなければその時に解決できたから。
不登校・中退者向け 個別指導塾	・ 大手塾で消化できなかったところの補講をしてもらっていた。個別に質問できるのでかなり細かくカバーできていた。

通信教育	・ 不登校の時に授業に関係なく自分のペースで勉強を行うことができたから。例えば、数学を飽きるまでやって、飽きたら英語、また飽きたら国語・・・等、問題から解説まで自分でできる教材が揃っていたから。 ・ 自分で好きなときに実施できる。
自宅学習	・ 自宅で好きな方法で学習するうちに自分を見つめ直す機会にもなった

うまくいかなかった理由	
一般向け大人数指導塾	・ 同級生との差を感じて、勉強そのものから目を背けた ・ 塾に行っていた時当時の学校の人から罵倒された。 ・ 予備校に通うという仕組みそのものが嫌だった
家庭教師	・ 講師と親しくなり過ぎた。講師が自分にスピードを合わせすぎてしまった。 ・ 「高校進学」に際しての受験勉強というのが当時引きこっていた自分からは遠く、現実感がないように思えて勉強に身が入らなかったため
自宅学習	気持ちがあまり勉強に向いていなかった。

自由記述の回答から以下が、仮説として示唆されます。

- 1： 講師との信頼関係は、通塾継続要因となりうる
- 2： 生徒がマイペースに勉強出来ることが重要
- 3： 生徒のペースに合わせて学習指導を行うのが重要な反面、生徒のペースに合わせて過ぎる事は、勉強が進まず、学び直しにマイナスに働く事に繋がる可能性がある。
- 4： 一般向け大人数指導塾の場合、不登校・引きこもり経験者は同年代の人からの目が気になり、うまく通えなくなる場合がある。
- 5： 生徒の勉強へのモチベーションの維持は重要である

⑦不登校・引きこもり期間の長さと言習方法の成否の関係

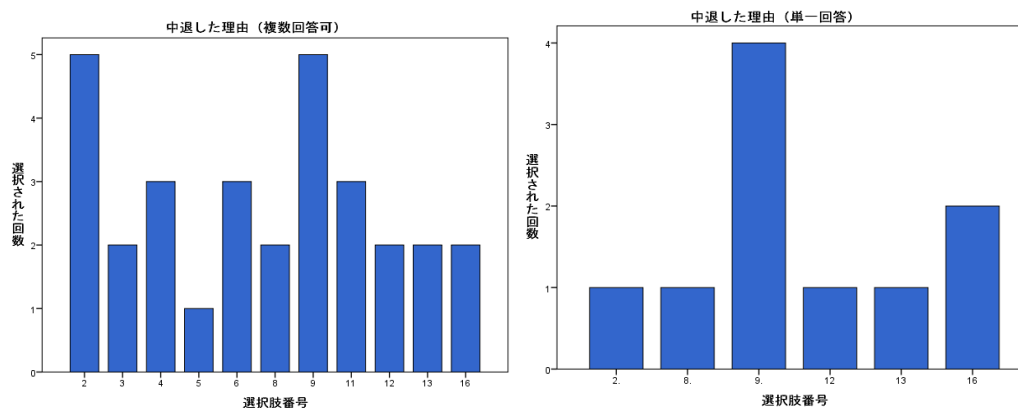
不登校・引きこもり期間が長い場合、学び直す内容が多く、学び直しを試みても難しい場合が多い、という仮説が考えられます。そのため、「不登校・引きこもり期間の長さ」と「学習方法の成否」のクロス表を作成しました。

不登校・ひきこもりの期間の長さ						
	1年以下	1年	2年	3年	4年	合計
うまくいった	1	1	0	4	1	7
うまくいかなかった	1	0	1	1	0	3
合計	2	1	1	5	1	10

しかし、特に示唆的な内容は出てきませんでした。今回は、不登校・引きこもりの長さ・成功の可否どちらかに欠損値があるケースが多かったため、サンプル数がさらに多い調査を実施する際に、改めて検討したいと考えています。

2-4. 中退からの学び直し

①中退した理由



参考：選択番号一覧

- | | | |
|---------------|------------------|------------------|
| 1. 交友関係（いじめ） | 2. 交友関係（疲れ） | 3. 交友関係（トラブル／破綻） |
| 4. 交友関係（孤立） | 5. 部活動でのトラブル | 6. 学校／先生とのトラブル |
| 7. 受験／塾通い疲れ | 8. 家庭問題 | 9. 新しい学校での適応困難 |
| 10. 非行 | | |
| 11. 不安感 | 12. 挫折感（入試の失敗など） | 13. 学業不振 |
| 14. 対人恐怖 | | |
| 15. 保護者の期待が重い | 16. その他 | |

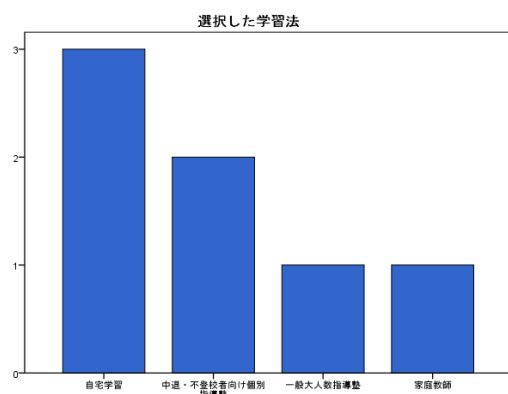
複数回答可の場合、「2. 交友関係（いじめ）」「9. 新しい学校での適応困難」が最も多く、ついで「4. 交友関係（孤立）」「6. 学校／先生とのトラブル」「11. 不安感」が多く選ばれました。

単一回答の場合は、「9. 新しい学校での適応困難」が最も多く、ついで「その他」が選ばれました。

不登校・引きこもりの理由と同様、「9. 新しい学校での適応困難」が最も多く選ばれていることを考えると、中退者の数を減らすためにも、入学初年度のケアが最も重要である、という仮説が示唆されます。

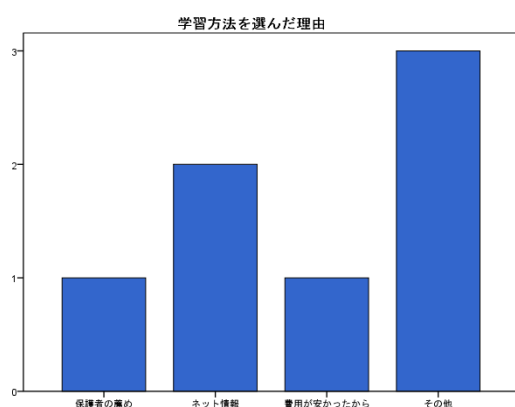
②選ばれた学習方法の種類

中退を経験した人の内、なんらかの学習をしていた人は調査対象者の中で7人いました。以下では、その7ケースの学習について見ていきます。



「自宅学習」が最も多く、ついで「中退・不登校者向け個別指導塾」が多く選ばれました。今回の調査の対象者は、調査実施団体(特定非営利活動法人キズキ)の運営する中退・不登校者向け個別指導塾の生徒・卒業生・講師が中心になっています。そのため、「中退・不登校者向け個別指導塾」の回答の多さはバイアスがかかっており、実質的には自宅学習のみが多く選ばれている、と考えることができます。サンプルが少ないため可能性としての話ですが、不登校・引きこもり経験者が一般大人数指導塾を多く選択するのに対し、中退経験者は自宅学習を多く選択するのかもしれません。

③学習方法を選んだ理由

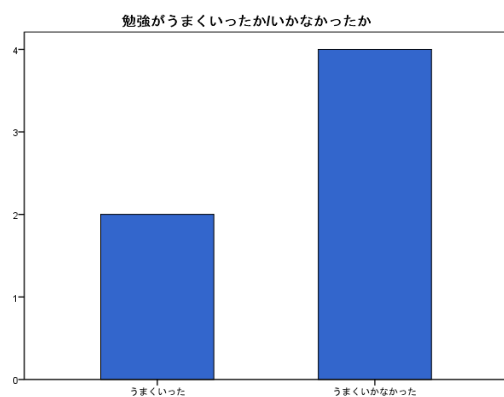


学習方法を選んだ理由としては、「その他」が最も多く選択され、ついで「ネット検索」が多く選択されました。不登校・引きこもり経験者の圧倒的多数が「保護者の薦め」に

基づいて学習法を選択しているのに対して、中退経験者で「保護者の薦め」によって学習法を選択したのは7ケース中1ケースのみです。

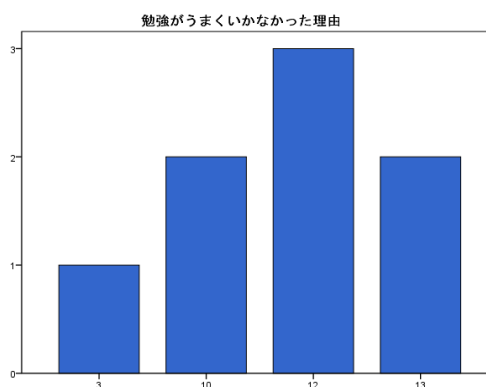
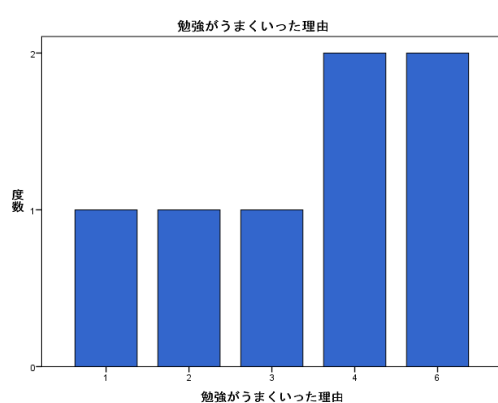
④選んだ学習方法の成否

無回答が1ケース存在していたため、ケース数は6になりました。



学習方法への取り組みは6ケースの中、2ケース成功し、4ケースは失敗したと答えました。不登校・引きこもり経験者や、卒業後ブランクがあったケースよりも比較的「うまくいかなかった」と答えた人が多い結果となりました。

⑤成否の理由(選択)



参考：「勉強がうまくいった理由」選択肢一覧

(塾等の学習機関で)

- | | |
|----------------------|------------------|
| 1. 自分に合わせて勉強法を考えてくれた | 2. 宿題の量が丁度良かった |
| 3. 授業のスピードを調整してくれた | 4. 授業のレベルが丁度良かった |
| 5. 通うための場所が近かった | 6. 講師に質問しやすかった |

参考：「勉強がうまくいかなかった理由」選択肢一覧

(塾等の学習機関で)

- | | |
|------------------------|------------------------|
| 1. 自分に合わない勉強法を押し付けられた | 2. 宿題の量が多すぎた |
| 3. 授業のスピードが遅すぎた/早すぎた | 4. 授業のレベルが高すぎた/低すぎた |
| 5. 先生が合わなかった | 6. 先生に叱責されて勉強するのが嫌になった |
| 7. 講師に焦らされ、勉強するのが嫌になった | 8. 通うための場所が遠すぎた |
| 9. 通うための場所が近かった | 10. やる気がでなかった |
| 11. 講師に質問しづらかった | |

(自宅学習で)

- | | |
|---------------------|-----------------|
| 12. 勉強の仕方がよく分からなかった | 13. 自習時間をとれなかった |
|---------------------|-----------------|

うまくいった理由をみると、「4. 授業のレベルが丁度良かった」「6. 講師に質問しやすかった」が多く選ばれている。うまくいかなかった理由をみると、「12. 勉強の仕方がよく分からなかった」「10. やる気が出なかった」「13. 自習時間をとれなかった」が多く選ばれています。

⑥成否の理由(自由記述)

学習方法の成否の理由として、思い当たる事を自由記述してもらいました。

回答を、学習方法毎に掲載しています。

※回答は基本的に原文のまま掲載していますが、明確な誤字脱字については修正しました。また、学習方法ごとに掲載する都合上1つの文章を2つ以上に分けた場合があります。

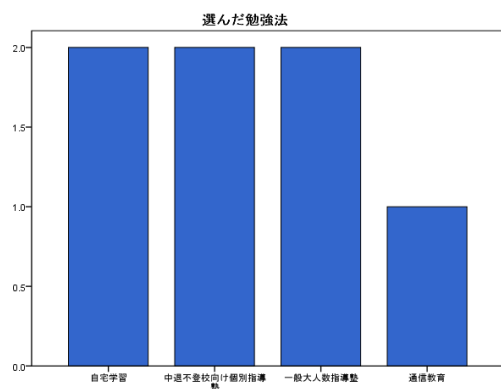
うまくいった理由	
不登校・中退者向け 個別指導塾	・自分に合わせて少しずつ量を増やしてく勉強法だったから。塾という環境で意欲が上がったから。
うまくいかなかった理由	
自宅学習	・全ての自分の判断通り行っただけで、モチベーションが上がらなかった。受験シーズンが近づき辛くなって中止した。 ・アルバイトに集中し、寝て、アルバイト、寝ての繰り返しだったため。

自宅学習を選択した人が多かったせいか、⑤成否の理由(選択)、⑥成否の理由(自由記述)ともに自宅学習での難しさについての回答が目につきました。中退し学校機関から離れた場合、自由時間が増えている中で自宅学習を選択することで、モチベーションの維持や時間管理がうまくいかず、学び直しに失敗してしまう、という行動パターンが可能性として考えられます。

2-5. 卒業後ブランクからの学び直し

①選ばれた学習方法の種類

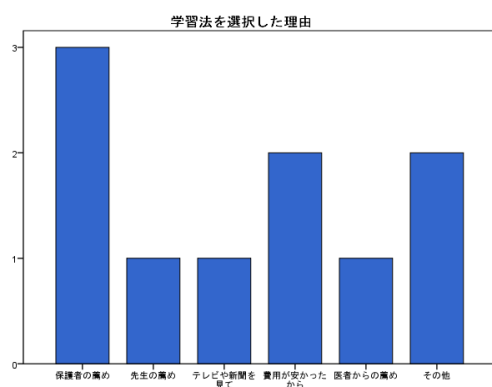
無回答が存在していたため、以下では7ケースの学習について見ていきます。



「自宅学習」「中退不登校向け個別指導塾」「一般大人数指導塾」が多く選ばれています。

②学習方法を選んだ理由

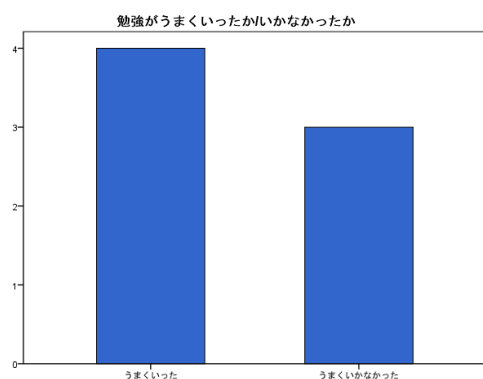
※単一回答の欄は欠損値が多かったため未掲載。複数回答の場合のみ掲載。



「保護者の薦め」が最も多く、ついで「費用が安かったから」「その他」が選択されています。

既に卒業し学校機関から離れているにも関わらず、中退者とは異なり、保護者の薦めの影響を受けている点は注目に値すると思います。また、費用の安さについては、卒業後アルバイトなどで自ら生計を立てている人が、費用を重要な点と考えて学習法を選択した可能性が考えられます。

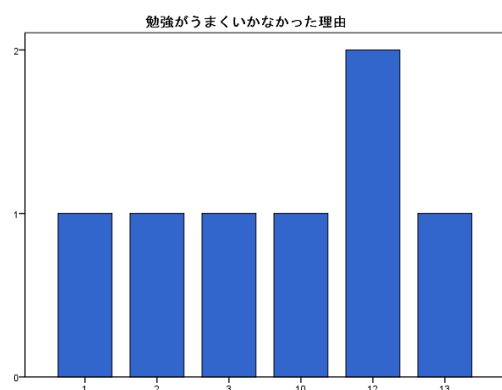
③選んだ学習方法の成否



学習方法への取り組みは7ケースの中、4ケース成功し、3ケースは失敗したと答えました。

④成否の理由(選択)

※「うまくいった理由」は回答数が少なかったため、図を未掲載としました。



参考：「勉強がうまくいかなかった理由」選択肢一覧

(塾等の学習機関で)

- | | |
|------------------------|------------------------|
| 1. 自分に合わない勉強法を押し付けられた | 2. 宿題の量が多すぎた |
| 3. 授業のスピードが遅すぎた/早すぎた | 4. 授業のレベルが高すぎた/低すぎた |
| 5. 先生が合わなかった | 6. 先生に叱責されて勉強するのが嫌になった |
| 7. 講師に焦らされ、勉強するのが嫌になった | 8. 通うための場所が遠すぎた |
| 9. 通うための場所が近かった | 10. やる気がでなかった |
| 11. 講師に質問しづらかった | |

(自宅学習で)

- | | |
|---------------------|-----------------|
| 12. 勉強の仕方がよく分からなかった | 13. 自習時間をとれなかった |
|---------------------|-----------------|

うまくいった理由としては「2. 自分に合わせて勉強法を考えてくれた」「6. 授業のスピードを調整してくれた」「8. 授業のレベルが丁度良かった」「16. 講師に質問しやすかった」がそれぞれ一回ずつ選ばれました。

うまくいかなかった理由としては、「12. (自宅学習で)勉強の仕方がよく分からなかった」が多く選ばれました。これは、卒業後学校機関から離れている事に起因していると考えられます。自宅での学習方法がよく分からなくなっている、学習者が想定されず。

⑤成否の理由(自由記述)

うまくいった理由	
一般向け大人数指導塾	・生活リズムを正すことができたため。
一般向け個別指導塾	・ある程度プレッシャーを与えられることで、勉強しなければならない状況が作り出された
通信教育	・自習のリズム形成に役立った。
うまくいかなかった理由	
一般向け大人数指導塾	・最初は勉強を少しはしていましたがやる気が無くなり、授業のスピードも早く中一レベルの基礎からは教えてもらえなかった。合わなかった個別の方が良かったと思う。
自宅学習	集中できずネガティブな思考のループに陥った

学習方法を問わず、うまくいった理由として、

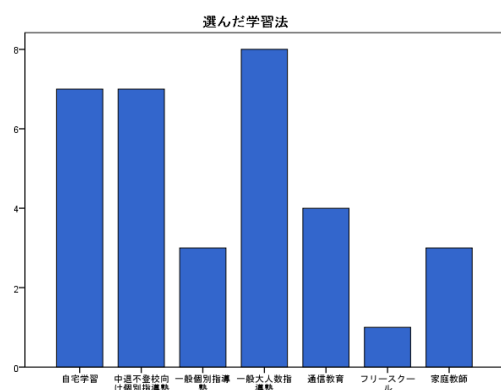
- ・生活リズム
- ・学習リズム
- ・ある程度のプレッシャーの必要性

が指摘されています。学校機関から離れているため、生活・学習のリズムを保つためにある程度のプレッシャーが一必要とされているのでは、と考えられます。

2-6. 学び直し全般

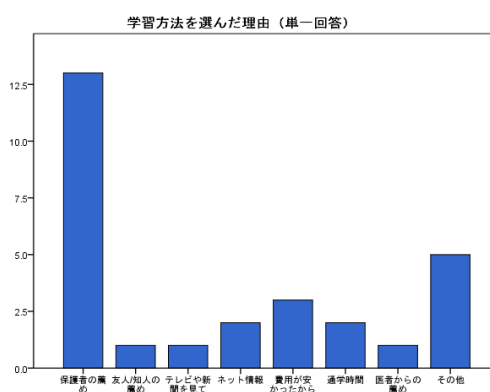
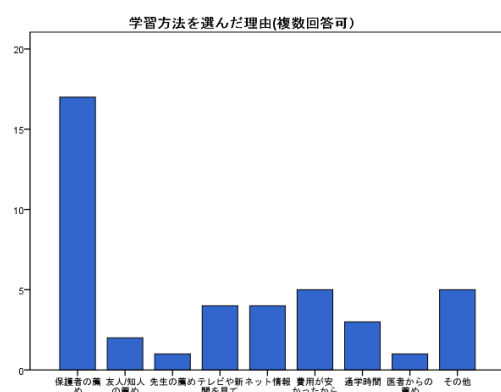
本節では 2-3、2-4、2-5 のサンプルを足しあわせて、学び直し全般についての調査結果を見ていきます。サンプルは全部で 33 ケースとなりました。

①選ばれた学習方法の種類



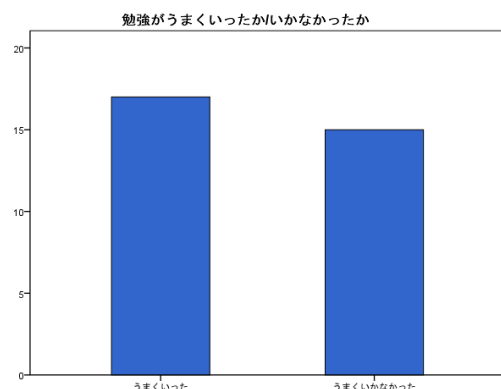
「一般大人数指導塾」が最も多く選ばれ、ついで「自宅学習」「中退・不登校経験者向け個別指導塾」が多く選ばれています。弊団体の運営する塾は中退・不登校者向け個別指導塾であり、かつ塾の生徒を質問対象者としたため、実質的には「一般大人数指導塾」「自宅学習」が多く選ばれている、と言えます。

②学習方法を選んだ理由



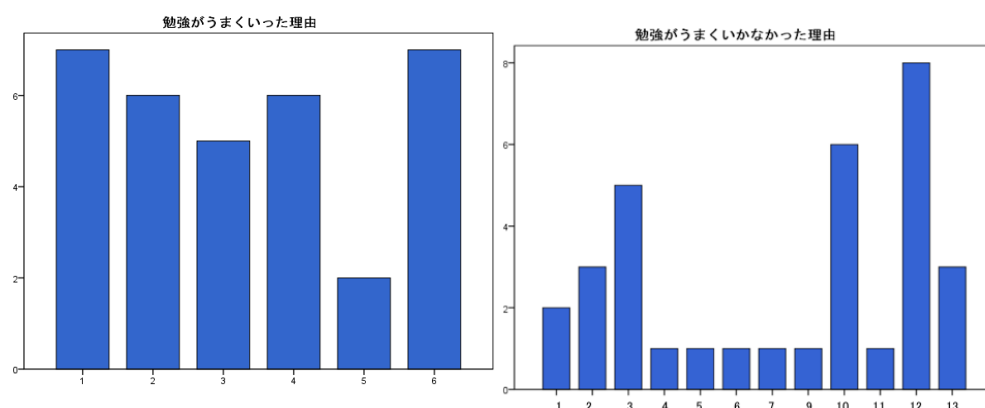
「保護者の薦め」が最も多く選ばれ、ついで「費用が安かったから」が選ばれていました。保護者の影響力の強さが伺えます。

③選んだ学習方法の成否



学習方法への取り組み33ケースの中、19ケース成功し、13ケースは失敗したと答えました。（欠損値の影響で合計が33ではなく32です。）

④成否の理由（選択）



参考：「勉強がうまくいった理由」選択肢一覧

（塾等の学習機関で）

- | | |
|----------------------|------------------|
| 1. 自分に合わせて勉強法を考えてくれた | 2. 宿題の量が丁度良かった |
| 3. 授業のスピードを調整してくれた | 4. 授業のレベルが丁度良かった |
| 5. 通うための場所が近かった | 6. 講師に質問しやすかった |

参考：「勉強がうまくいかなかった理由」選択肢一覧

(塾等の学習機関で)	
1. 自分に合わない勉強法を押し付けられた	2. 宿題の量が多すぎた
3. 授業のスピードが遅すぎた/早すぎた	4. 授業のレベルが高すぎた/低すぎた
5. 先生が合わなかった	6. 先生に叱責されて勉強するのが嫌になった
7. 講師に焦らされ、勉強するのが嫌になった	8. 通うための場所が遠すぎた
9. 通うための場所が近かった	10. やる気がでなかった
11. 講師に質問しづらかった	
(自宅学習で)	
12. 勉強の仕方がよく分からなかった	13. 自習時間をとれなかった

うまくいった理由としては、「1. 自分に合わせて勉強法を考えてくれた」「6. 講師に質問しやすかった」が最も多く選ばれ、ついで「2. 宿題の量が丁度良かった」「4. 授業のレベルが丁度良かった」が多く選ばれていました。

うまくいかなかった理由としては、「12. 勉強の仕方がよく分からなかった」が最も多く選ばれ、ついで「10. やる気がでなかった」「3. 授業のスピードが遅すぎた/早すぎた」が多く選ばれていました。

⑤学習方法の選択と成否の関係

学習方法と、学習の成否の関係性を調べるためにクロス表を作成しました。

欠損値のため、合計が 32 となっています。

		学習方法の選択						合計
	自宅学習	中退不登校向け個別指導塾	一般個別指導塾	一般大人数指導塾	通信教育	フリースクール	家庭教師	
うまくいった	1	6	1	4	4	1	0	17
うまくいかなかった	6	0	2	4	0	0	3	15
合計	7	6	3	8	4	1	3	32

まず、「中退不登校経験者向け個別指導塾」でうまくいったケースが非常に多い結果

になりました。ただし、弊団体の運営する塾は中退・不登校者向け個別指導塾であり、かつ塾の生徒・卒業生を質問対象者としたため、割引いて数値を見る必要があります。

次に、自宅学習でうまくいったケースが非常に少ない結果になっています。やはり他の自由記述欄などを見ますと、やはり自宅学習だけでは、1：モチベーションの維持、2：自分に合った勉強方法の把握、という点などから難しい様子が伺えます。

また、一般大人数指導塾は、うまくいった人とうまくいかなかった人が同数であり、人によってはうまくいくものの、全く同様に人によってはうまくいかない事が分かります。

⑥自由記述から見えるもの

質問表の最後で、勉強が続けられている（または、続けられた）理由について聞きました。様々な回答がありましたが、以下の6つに分類した上で掲載しました。

- 1：勉強に興味関心が湧いたから
- 2：学び直したいという意思・強い気持ちがあったから
- 3：焦りがあったから
- 4：塾・講師のおかげ
- 5：周り（家族・友人・その他）のおかげ
- 6：その他

※回答は基本的に原文のまま掲載していますが、明確な誤字脱字については修正しました。また、グループごとに掲載する都合上1つの文章を2つ以上に分けた場合があります。

勉強が続けられている（続けられた）理由	
興味関心	・興味のあるものがあるから ・勉強のおもしろさ ・大学に行ってみたいと思った、一部の教科の勉強に興味を持った ・大学をでた人たちや大学に行った友人を見て、自分の将来やりたい事に必要だと考えて。高校レベルの好きな教科を勉強してみたいと思って(高校で勉強していなかったの) ・レベル云々ではなく、久しぶりに受ける「授業」（先生が黒板の前で話していて自分が椅子に座って聞いている）が新鮮で面白く楽しかった。また実践的な科目があり、それが面白く感

	じた。 ・様々な生き方を選択していたり、魅力的なひとにあったり、大学でどんなことを学べるかを多角的に知れたことで、教科の勉強に対するモチベーションがわいた。
意思	・この大学に進学したいという強い気持ちがあったから ・やっぱりやる気があるかどうかなのかなと思います。
焦り	・自分には時間が残っていないことを自覚したから ・社会人の友人が「会社のことや社会のことを何も知らないから教えて欲しい」という私の質問に答えてくれたことで、大学行って就職している人は考え方もしっかりしているし、現実的だと感じ、私は何もしらないし、何もないし、足りないと思ったから。人生やり直したいと思ったから ・勉強して上の大学に行くことが今までの挽回して自分の人生を決めることで重要なので。 ・自分には何もないという焦り ・そろそろ勉強しないとまずいという気持ちがあり ・中学時代不登校だった際に、一度通わなくなると（主に気持ちの面で）通いにくくなること痛感していた。運よく高校に合格できたことで掘んだやり直しのチャンスを自分から逃したくはなかった。 ・（高校を中退して中卒となってしまうことへの不安）親が大卒だったこともあってか、大学を卒業することは当たり前だと思っていた。当時は大学進学が目途は立っていなかったが、進学的前提として通い続けることは自分の中で必然だった。
塾・講師	・安心して教えてもらえる先生がいたから ・自分で探してドロップアウトし勉強から離れている人向けの塾に通えていること。個別なおかげ。 ・中退者であることを受け入れ対応してくれる環境 ・大学受験のための学習をしたいという気持ちがあったが、従来の予備校等には通学できない状況にあった。自分の気持ちの「むら」に対応しゆっくり勉強を始められる機関は「学び直し」のスタートに不可欠だった。 ・個別で自分のペースで基礎から教えてもらっているので継続できている。 ・人と関わるのが怖かったが最初に教わるようになった先生が事情を知った上で、笑顔で対応してくれたので、安心した。それから新しい先生でも教わるできるようになった。
周りの後押し (家族・友人・その他)	・とてもいい親をもてたから ・同じ学年の人が進学や就職に向けて準備している中、私は中学時代から一切勉強しておらず大幅に遅れていることに気づいた時、このままでは就職するのに手遅れになるまであっという

	間だとあわてて勉強を始めた。勉強する機会を全部捨てて来たのに今頃急に勉強したいといっ ても何も言わずに環境を親が整えてくれたので、それに応えたいと思った。 ・ 親の応援 ・ 母の応援。 ・ 親が進めてくれたきっかけで始めることができた。 ・ 兄妹、友人の間に良いライバル関係があり、常に競いあえる環境があったから。何故？の質 問と一緒に考えてくれる相手がいた ・ 兄が良い高校に行き、良い大学に行っていたから。 ・ 毎日待ち合わせをして一緒に通う友人がいた。休んではその子に悪いと思った。 ・ 自分と経験が近い人の存在 ・ 自分を理解して応援してくれる家族以外の人の存在 ・ 周りの理解・支援 ・ 客観的に、心地よい距離感をおいてアドバイス、相談に乗ってくれたから。勉強については、 自分にとって家族以上に信頼できるパートナーになってくれたから。 ・ 尊敬できる人の後押し ・ 応援してくれる環境が周りにあったこと
その他	・ 不登校者向けの学習塾が近くにあったから ・ 規則的な生活習慣 ・ おみくじ ・ 根拠のない自分の実力に対する自信から抜け出すことができたから

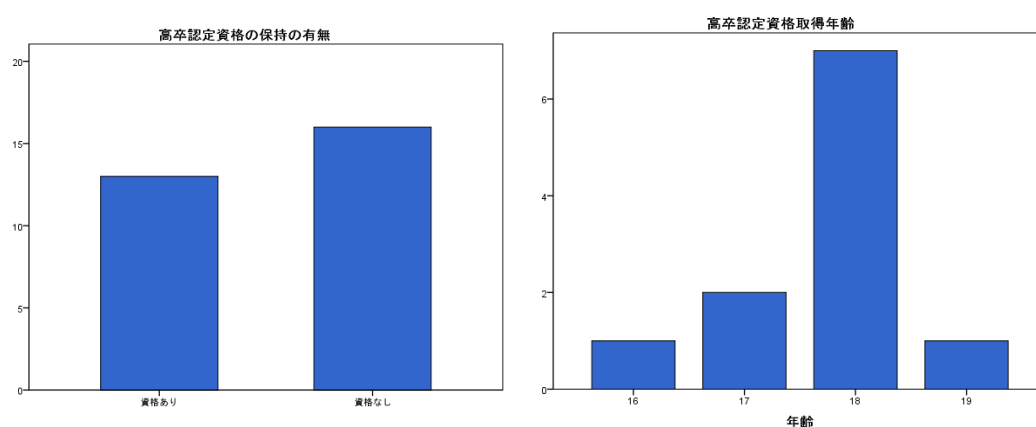
「どの要素が重要か」は人によって異なってくるかと思います。そのため、学び直し支援に際しては、どの部分をバックアップして上げれば、生徒がうまくいくかを考えながら支援していくことが肝要だと考えられます。また、5要素内どの要素がどういった人に効いているか(そもそも5要素以外に要素はあるのか)は本調査では追い切れなかったため、別途調査・分析する必要があります。

2-7. 学び直しの選択肢

2-7-1. 高卒認定資格

高校中退などを経験した場合、学び直し的手段として高卒認定試験があります。試験に合格することで、「高卒程度の資格証明」を得ることができ、大学受験等の進学が可能になるからです。本節では、調査対象者の高卒認定資格の有無、取得年齢を記述します。

①資格取得率・取得年齢

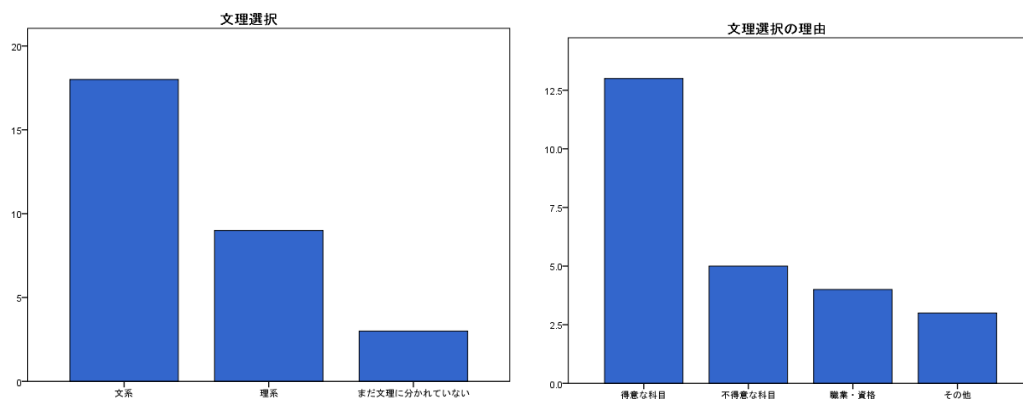


調査対象者のうち、資格を持っていると回答した人は 43.3%でした。この値は、現在も学び直し中の生徒と、既に学び直しを終えた卒業生・講師を分けても同様の割合でした。また、高卒認定資格取得年齢は 18 歳が最も多い結果となりました。

2-7-2. 文理選択

大学受験をする場合、いわゆる文系・理系を選択する必要があります。本節では文理選択先や、その理由などについて記述します。

① 文理選択の比率・理由



文理の選択は文系の方が多い結果になりました。

選択理由としては、「得意な科目があったから」という理由を選んだ人が最も多く、次に「不得意な科目があったから」「取りたい資格や就きたい職業があったから」という結果になりました。

② 文理選択の学び直しに与える影響

下表は、文理選択の学び直しに与える影響を検討するための表です。

過去に何らかの経験をした後、大学に進学した弊団体が運営する塾の講師・卒業生を「学び直し済み」、塾で勉強している生徒を「勉強中」と一時的に(操作的に)定義しました。もちろん「勉強中」の生徒には、受験期を迎えれば自動的に「学び直し済み」に移行する人もいるでしょう。また、今回の調査対象の偏りも多いにあると思います。ただ、一方でなんらかの要因から「勉強中」である期間が長引いている生徒も一定数存在する可能性があります。そのため、

- ・ 講師・卒業生→学び直し済み
- ・ 生徒(勉強中)→学び直しはまだ

としてその分布の差を見ることは一定の妥当性があるのでは、と考えております。

表をみると、生徒は文理がばらばらであるのに対して、講師・卒業生はほとんどが文系です。文理を基準として、今回のサンプルを選んだわけではない以上、(上述したバイアスを踏まえた上でも)、文系の方が大学受験を通じた学び直しをしやすい、という仮説を立てることができるでしょう。

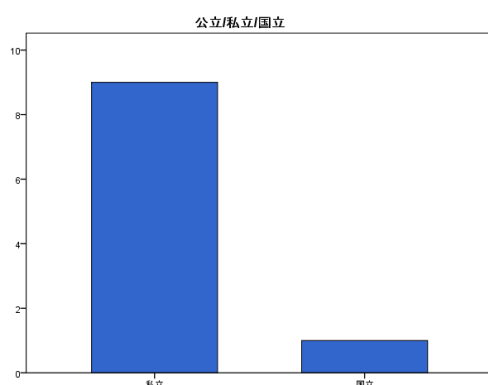
2-7-3で後述するように、学び直し済みの講師・卒業生の多くは私大に進学しています。私立文系の受験科目の少なさ(英語・国語・社会)が、学び直しに影響を与えている可能性があります。ただし、このことが一般的に言えるかを判断するためには、より大きいサンプルサイズでの調査が必要です。

	文理選択			
	文系	理系	未定	合計
学び直し済み(講師・卒業生)	10	0	1	11
勉強中(生徒)	8	9	2	19
合計	18	9	3	30

※学び直し済みで文理未定と選択した人は、受験時に文理選択の必要がなかったケースと考えられます。

2-7-3. 進学先

①入学先の国立/私立/公立別



講師・卒業生の入学先をみると、ほとんどが私立です。2-7-1 で言及しましたように、試験科目の数が、大学受験を通じた学び直しのしやすさに、影響を与えているのかもしれない。

※講師・卒業生の

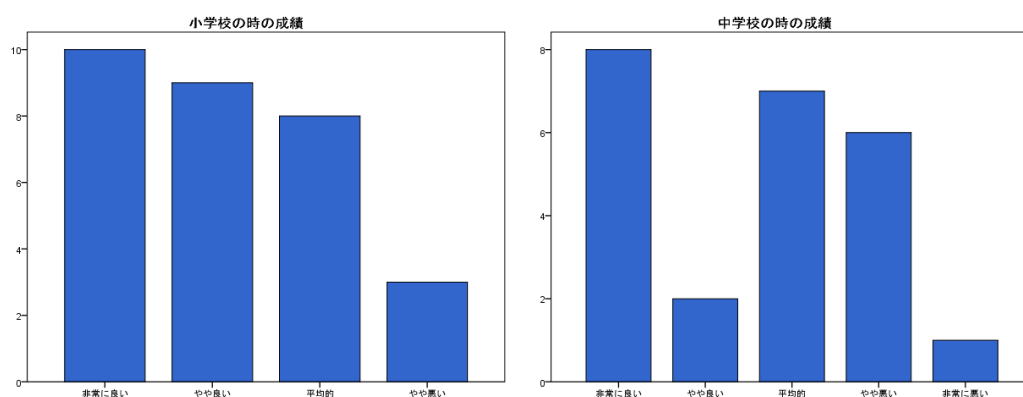
- ・入学先の偏差値
- ・入学後の成績
- ・入学後の出席率

をみましたが、目立った値の偏りはありませんでした。そのため、図表の掲載は割愛します。

2-8. 家庭や小中学生時の成績の影響

2-8-1. 小中学生時の成績の分布

下図は、小中学校時の成績についての質問の回答です。図中の項目は、それぞれ「非常に良い成績(評定平均5程度)」「やや良い成績(評定平均4程度)」「平均的な成績(評定平均3程度)」「やや悪い成績(評定平均2程度)」「非常に悪い成績(評定平均1程度)」という選択肢と対応しています。



小学校ではほとんどの人が平均以上の成績をとり、中学校では成績が良い層と悪い層に若干の分化が発生していることが分かります。

2-8-2. 小中学生時の成績の影響

①小学校の成績と学び直し

2つ方法で、学び直しの有無を一時的に定義(操作化)しました。

図1は、下記のように学び直しの有無を設定して分布を見えています。

- ・ 講師・卒業生→学び直し済み
- ・ 生徒(勉強中)→学び直しはまだ

※サンプルの偏りについては、2-7-2. ②を参照。

図2は、2-3 から 2-6 と同じように調査対象者の学び直しの成否ではなく、調査対象者が行った勉強法の成否を、学び直しができた(できている)・できていない、と見立てたものです。

いくつも勉強法を試している人は、その分多くカウントされてしまいますが、一つ目のように、まだ受験期を迎えていないという理由だけで学び直しができていない、とカウントされる可能性を避けられます。

小学校の時の成績					
	非常に良い	やや良い	平均的	やや悪い	合計
学び直し済み（講師・卒業生）	5	3	3	0	11
勉強中（生徒）	5	6	5	3	19
合計	10	9	8	3	30

図1. 小学校の時の成績と、学び直しの有無

小学校の時の成績					
	非常に良い	やや良い	平均的	やや悪い	合計
勉強法がうまくいった	8	4	4	1	17
勉強法がうまくいかなかった	6	6	3	0	15
合計	14	10	7	1	32

図2. 小学校の時の成績と、学習方法の成否

サンプルサイズが小さいのが大前提ですが、図1で「やや悪い」が勉強中のみにしか現れていない点は指摘されるべきでしょう。ただ、一方で「やや悪い」の人でも、図2で勉強法がうまくいったりもしています。

②中学校の成績と学び直し

小学校の時の成績と同じように、中学校の時の成績についても表を作成しました。学び直しについての定義も同様です。

※サンプルバイアスについても、2-8-2①参照。

	中学校の時の成績					合計
	非常に良い	やや良い	平均的	やや悪い	非常に悪い	
学び直し済み（講師・卒業生）	4	1	3	1	0	9
勉強中（生徒）	4	1	4	5	1	15
合計	8	2	7	6	1	24

図1. 中学校の時の成績と、学び直しの有無

	中学校の時の成績					合計
	非常に良い	やや良い	平均的	やや悪い	非常に悪い	
うまくいった	9	3	3	0	0	15
うまくいかなかった	3	1	2	5	0	11
合計	12	4	5	5	0	26

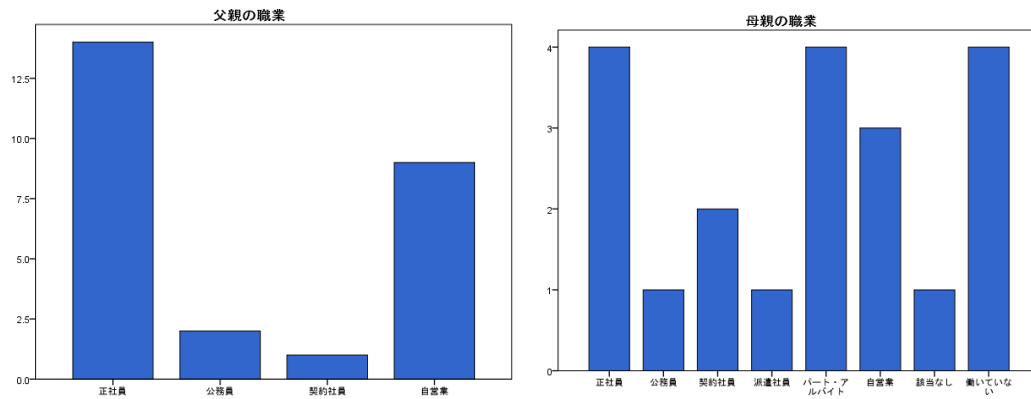
図2. 小学校の時の成績と、学習方法の成否

図1・図2ともに、まだ学び直しが出来ていない・勉強法がうまくいかなかった層は、中学校時の成績が「平均的」より悪い場合が多いことが分かります。このことから、サンプルバイアスの可能性はあるにしても、中学校の時の成績が悪いほどその後、学び直しをすることが困難になる、という仮説を導くことができます。

※図2の勉強がうまくいった/いかなかったは自己評価となっています。そのため性格的に自己評価が高い人は、小中の成績及び、学習法の成否を良い方に回答している可能性があります。テストスコアなど客観的な指標で計測するのが本来は望ましい形です。

2-8-3. 親の職業

下図は調査対象者の親の職業の分布です。



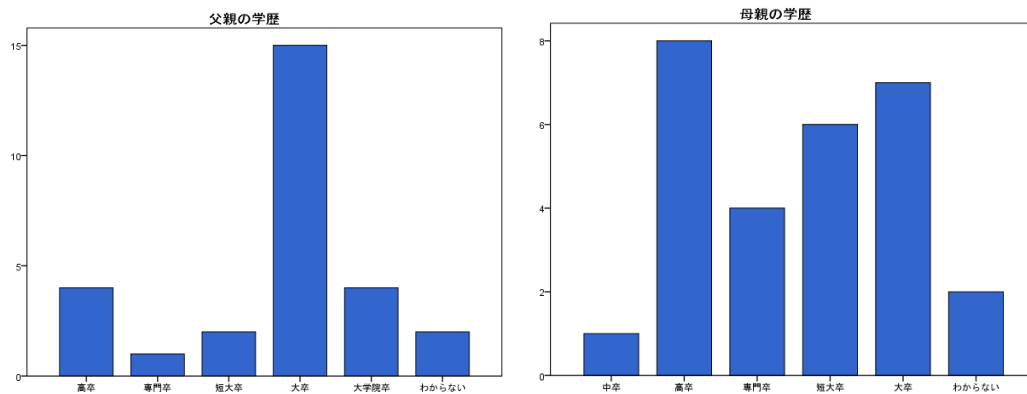
父親は正社員勤務が多く、母親は正社員・アルバイトなどの非正規雇用・働いていない（専業主婦）に分かれました。

小中学校の成績と同じく、親の職業と学び直しについての表を作成したのですが、顕著な値の偏りの差は観察されなかったもので、割愛します。

※父親の職業で、自営業が多い事は指摘されて良いかと思います。これは、「学び直し済み」「勉強中」に調査対象者を分けてもおおよそ同数ずつ表れます。本調査の対象者のみの偏りなのか、他サンプルを用いた検討が必要です。また、他サンプルでも自営業が多い場合、自営業の仕事内容を細かく聞く必要もあるかもしれません。

2-8-4. 親の学歴の分布

下図は、調査対象者の親の学歴の分布です。父親は大学卒が最も多く、母親は高卒～大卒あたりに分散しています。



2-8-5. 親の学歴の影響

①父親の学歴と学び直し

以下は、父親の学歴と学び直しの有無についての表です。

※学び直しの有無のこの表における定義(操作化)や、サンプルバイアスの可能性については、2-8-2 を参照。

	父親の学歴						合計
	高卒	専門卒	短大卒	大卒	大学院卒	わからない	
学び直し済み（講師・卒業生）	2	1	1	5	1	0	10
勉強中(生徒)	2	0	1	10	3	2	18
合計	4	1	2	15	4	2	28

図 1. 父親の学歴と、学び直しの有無

	父親の学歴					合計
	高卒	短大卒	大卒	大学院卒	わからない	
うまくいった	2	1	8	4	0	15
うまくいかなかった	2	1	7	2	2	14
合計	4	2	15	6	2	29

図 2. 父親の学歴と、学習方法の成否

父親の学歴について、学び直しの有無を分けても、ほとんど値の偏りの差は見られませんでした。図1では、若干「学び直し済み」の方が学歴が低く、図2では「うまくいった」方が若干学歴が高い傾向も見られましたが、誤差の範囲内の可能性が高いのでは、と考えられます。

②母親の学歴と学び直し

以下は、母親の学歴と学び直しの有無についての表です。

※学び直しの有無のこの表における定義(操作化)や、サンプルバイアスの可能性については、2-8-2を参照。

	母親の学歴						合計
	中卒	高卒	専門卒	短大卒	大卒	わからない	
学び直し済み(講師・卒業生)	0	3	1	2	4	0	10
勉強中(生徒)	1	5	3	4	3	2	18
合計	1	8	4	6	7	2	28

図1. 母親の学歴と、学び直しの有無

	母親の学歴						合計
	中卒	高卒	専門卒	短大卒	大卒	わからない	
うまくいった	0	2	2	5	5	1	15
うまくいかなかった	1	3	2	5	2	1	14
合計	1	5	4	10	7	2	29

図2. 母親の学歴と、学習方法の成否

図1では、学び直しをしているいか否かで、値の偏りの差は見られませんでした。ただ図2では、「うまくいった」と回答している人ほど、母親の学歴が高いことが分かります。ここから、母親の学歴が高いほど学び直しの勉強法はうまくいくことが多い、という仮説を立てることが出来ます。

※父親は大卒がほとんどだったのに対して、母親は世帯毎に学歴のばらつきが激しいため、上記の値の偏りの差が観察されたのかもしれませんが。

3. 学び直しのシナリオ特集

-こうして若者たちは学び直した-

3-1. データからは見えてこない、学び直しの軌跡

本章では具体的なシナリオを通じて、学び直し、及び学び直しに至る経緯に迫ります。シナリオを通じて、数値では見えてこない個々別々な悩みや実態についてイメージを持ってもらう事を目的としています。

なお、本章で収録したシナリオは、学び直しを行った人へインタビューを行い、その内容を編集したものです。

3-2. 不登校・引きこもりからの学び直し

[Aくん：引きこもりを経て、現状を変えようと塾へ。]

中学校1年生ぐらいからうまく学校にとけこめなくなりました。もともと消極的な性格だったのですが、周りの人に悪口を言われているみたいな被害妄想から抜け出せなくなりました。それでも中学校はなんとか通い続け、卒業しました。

高校は私立のマンモス校に進学したんですが、成績はぼろぼろでしたし、人間関係を持つわけでもなく、部活にも入らずに過ごしました。「学生」という感じの生活は一切しませんでした。人との交流はうまくいってなかったし、さらに自分に合う場所を探す努力もしていませんでした。

そして、高校3年生の10月ぐらいから精神的に不安になって、2ヶ月ぐらい入院していました。卒業式は一時退院して参加しましたが、その後も精神的に不安定な状況が続きました。

高校を卒業してからは完璧にニートみたいな状態で、家でダラダラしていました。学校にもあまり行けなかった。大学に行く学力もない。宙ぶらりんというか、先が見えない、本当にこの先どうなるんだろうという思いが強くありました。

助けを求めているんですね。助け、までいくと大げさな表現ですが、「何かないか」「現状をどうにか出来ないか」と常に求めています。でも結局、「なんも無いから、今のままでもいいんじゃないか。」そんな思いが堂々巡りしていました。

気分はだいたい落ち込んでいました。苦しいというか焦りもあり、心につっかえがとれない毎日でした。外にも出られなかったし、もちろん電車にも乗れませんでした。話せるのも家族ぐらいで、関われる場所を見つけられずにいたんです。

そんな状態だった一昨年春に、塾が運営している掲示板を見つけて、書き込みをしました。

まず1年目はキズキに継続的に来て、勉強出来るようになるというのが課題でした。その頃はまだ気持ちが昂ったり、落ち込んだりというアップダウンがあったんですね。そして秋ぐらいから、徐々に勉強する体制ができてきました。

夏ぐらいから発破をかけられたりしながら、「そろそろ勉強やらなくちゃ」と自分でも思ったんですが、なかなか自宅での勉強に手を付けられずにいました。

ただ10月頃から、授業の後、残って勉強するのを習慣化するようにしたんですね。まずは座って、なにか教科書を広げて、1時間みたいな所から。読むことが難しい時は、何かを書いてみる。どうしても集中できないときは、図書館に行ってみる。

そうしている内に、徐々にですが、リズムができてきました。自習も徐々に捗るようになってきました。

授業では先生が、実力に合わせた教え方をしてくれたのも助かりました。例えば、英語などの文章読んでいて、どうしても分からない所で止まってしまう時があったんですね。そういう時は授業で扱った参考書を持ってきて、もう一度丁寧に解説してくださいました。

入試では、緊張してしまって、集中力を維持するのも大変でした。あんまりうまくいきませんでしたね。結果に自信もありませんでした。でも太刀打ち出来るどころ、自分が出来そうなレベルの問題から取り掛かって行きました。

そして結果発表。志望していた大学に無事合格することが出来ました。発表は朝の 11 時だったんですが、ネットで発表出るまでは「もしダメだったらどうしよう」という気持ちの方が強い状態でした。

「もし落ちてたらこの先どうなるんだろう。」とばかり考えてしまい、自信はあまりありませんでした。なので、受験結果を知ったときは、嬉しかったというよりほっとしました。親も「よく頑張ったね。大学生になれたね」と喜んで、エールを送ってくれました。(終わり)

3-3. 中退からの学び直し

[Bくん：疲労性の体調不良から中退。徐々に体調を治し、受験を決意]

小・中学校時代は野球部でキャッチャーをしたり、生徒会に入ったりと、楽しい学生生活を送っていました。勉強にも自信があって、このまま高校受験も難なく終わると思っていました。

当時、外国語教育に力を入れているとても行きたい高校があったんです。その高校に進学して、「3年間フランス語を勉強してみたい。」と思っていました。挫折を経験したことがなかった自分は、受験も受かる気がしていました。入る前から有頂天でした。

しかし、自信とは裏腹に受験に失敗してしまったんです。初めて挫折を経験した瞬間でした。その後、滑り止めの高校に通うことになりました。ものすごく悔しい思いでした。有頂天だった時の自分と、落ちて滑り止めの高校に通う自分の落差が大きかったを覚えています。

高校入学後は、「勉強が出来ない自分」に対する劣等感から、休日返上で猛勉強を開始しました。先生も非常に面倒見が良く、土日でも交代で勉強を見てくれました。部活もせず、高校受験の時に「自分を追って先に行った人達」に追いつこうと必死でした。高一は本当に勉強漬けの毎日でした。先生から「覚えてきて」「予習してきて」と言われたら、その部分は完璧にこなした上で、更にその先も予習しました。なぜなら私の高校からは、自分が行きたかった早稲田大学・慶應大学には毎年2,3人しか合格していなかったからです。「頑張らないといけない」と日々追われていました。ただそんな劣等感から生まれた頑張りが続いたのも、高校一年まででした。

体がだるい……。猛勉強を開始して1年がたった高校2年生の初め、疲労性の体調不良により学校に通えなくなりました。自分のことなのに、体が動かない。それ以来、自室に籠りがちになり、何をするでもなく好きなゲームをする毎日でした。

結局、出席日数が足らず、高校は中退。しかしそんな生活を1年ほど続けていると、だんだん気持ちに余裕ができてきました。時間が解決してくれたのかもしれませんが、当時は自分の体に何が起きているのかもよく分からなかったのですが、少しずつ「無理しすぎていたのだ」と、理解できるようになりました。

やがて体調は安定して、(小遣い稼ぎに)アルバイトを始められるまでになりました。そのアルバイト生活によって徐々に生活リズムも安定しましたが、一方で社会の厳しさを知ることになりました。そして、現状に危機感を覚え、19歳の春、大学受験を決めました。・・・(以下略)

3-4. 社会人からの学び直し

[Cさん：大学卒業後仕事に就くもコンプレックスから、再受験]

自分に自信がありませんでした。今まで、何かを頑張ったことがなかったんですね。「努力して、レベルアップしたい。」そう思って大学卒業後3年目で、社会人入試を決意しました。

高校は進学校でした。推薦で入ったのですが、周りの人とうまく価値観が合わず、そんな自分をコンプレックスに思い、受け入れられずにいました。また、勉強にもついていけず、「勉強の仕方も分からない」という劣等生でした。

進学校だからと言って、みんながみんなうまく勉強出来て、進学できるわけじゃないんですね。進学校内で分かれるんです。うまくいく人はうまくいく。でもそうじゃない私はずっと底辺でした。

勉強の仕方や周りとの接し方に悩みましたが、結局、医療系の勉強ができる大学に進学することが出来ました。でも、大学に入っても成績は決して良くはなく、バイトか授業に追われる毎日でした。その後、医療系の資格をとることができ、その資格を活かして今の職場に就きました。

ただ、その職場には様々なバックグラウンドの人がいたんですね。高卒だったり、専門学校卒だったり。そうした人達と話す中で、もう一度頑張ってみたいという気持ちが芽生えてきたんです。

もちろん、再受験するっていう決断はすごい不安なものでした。仕事はもちろん辞めなくてははいけません。また受験に受かるかも分かりませんし、仮に受かって学生になったとしても自分と同年代の人は普通に働いて、キャリアを積んでいきますからね。

だけど、とにかく一度勉強してみよう。そう思いました。もし勉強を続けられたら、それは本当に大学に行きたいんだろう、そう思うことにしました。

12月から毎日、17時から19時ぐらいまで働いた後、4,5時間勉強をしました。幸いなことに、挫折せず勉強を続けることは出来ました。

ただ、そんな中、少しずつ受験情報や自分の勉強の仕方が合っているか気になってきました。勉強に対するブランクもありますし、入試制度も変わっていたので、「これで大丈夫なんだろうか」と不安になったんですね。

それまで予備校に通ったことはありませんでした。年も離れているし、今さら予備校に通うのには抵抗があったんです。それに、一番近くの予備校でも車で1時間かかる場所にあったので、結局塾には通わず、不安感を抱いたまま独学を続けました・・・(以下略)

[D くん：無気力な中、勉強もほとんど手につかず高校卒業から 1 年半経過]

小学校の時は普通で、どちらかというと中心的な存在でした。

中学校では生徒会長や、部活の副部長をやっていて、いわゆる優等生でした。

今振り返ってみると、この順調な学校生活に落とし穴がありました。中学 3 年ぐらいから手を抜き出したものの、成績はそれほど変わらない。それで「やってもやらなくても変わらないな」と思うようになっていました。

結局中学校時代は最後まで成績が落ちず、高校受験はうまくいきました。勉強はしていなかったものの第一志望には受かったんです。ただ、周りはみな勉強が出来る中、勉強をしない自分は授業についていけなくなりました。

ガクンという感じで、高校から成績が落ちてしまいました。

最初から成績はどん底です。しかし勉強する気は全く湧いてきませんでした。思えばこの頃から無気力状態になっていたんですね。素じゃない感じで、友人たちとも付き合い、二言目には「興味ない」というのが当時の口癖になっていました。

なんとかして「やる気」をだそうと頑張っても、すぐにその気持ちがなくなってしまう。気持ちを継続させることが出来ず、無気力な毎日がその後も続きました。現役のときも一浪のときも大学受験に失敗、しかも落ちても特に何も感じませんでした。当時は全く分からなかったんですが、今思えばこれが当時から無気力状態になっていた証拠だと思います。

実はこの頃家庭状況もあまり良くありませんでした。家族がバラバラで、それぞれが孤立していました。精神的にいっぱいいっぱい、心は瀕死の状態でしたね。

また 2 浪目に入ってから、大手予備校で受験勉強をしていたのですが、無気力状態だったため何も頭には来ませんでした。かろうじて残っていた意識で「これはやばい」と思い、病院に行ってみました。そこで、薬を処方してもらえたんです。

しばらくは薬の影響で寝たきりで体も頭もつらく、大変でした。ただ数ヶ月後ぐらいから、薬の効果から、無気力状態から脱するようになってきました。そこで家族とも話し合いの機会を持てるようになり、徐々に家族の状態も良くなりました。2 浪目の冬のことでした。

それまで、受験と家族のことで気持ちが完全にまいっていたのだと思います。勉強も一応していたけど、「どこが出来ていないのか」「どこから手をつければ良いか」が一切分からなかった。・・・(以下略)

4. 求められる教育支援方法

本章では、調査の結果や、学習支援を日々行う団体での知見をもとに、適切な学び直し支援方法について、見取り図を示したいと考えています。もちろん限られたサンプルを基にした議論であるため、全ての人に 100%当てはまる議論が出来たとは思いませんが、一定の知見をもとに参考になる情報を提供出来ればと考えております。

4-1. 気を付けるべき点

4-1-1. 学び直し希望者に学習支援機関へコンタクトをとってもらうために.

今回の調査から、不登校・引きこもり経験者に、学習機関へコンタクトをとってもらうためには第一に保護者にアプローチすべきである、ということが示唆されました。また、卒業後ブランクがあった後学び直そうとしている人は、保護者からの情報の他、費用が安いかな否かを気にしているようです。

ただし、中退経験者は、不登校・引きこもり経験者などと異なり、保護者からの薦めに基づいて学習機関の選択をしていなかったため注意が必要です。

4-1-2. 学習支援機関の選択について

今回の調査では不登校・引きこもり経験者が一般大人数指導塾を多く選択していたのに対し、中退経験者は自宅学習を多く選択していた傾向がありました。

しかしながら、自宅学習では多くのケースで 1 : モチベーションが持続できない、2 : 何を勉強して良いのか、分からなくなるということが分かりました。

また一般大人数指導塾では、うまく勉強できている人もいる一方で、授業のレベル・スピードが合わないという理由からうまくいかなかった人も同数いました (2-6⑤参照)。

学び直そうとしている若者がいたときに、上記の学習方法をとっているか否か、それはうまくいっているか否か、は注意が必要でしょう。

4-1-3. 学習支援時の注意点

生徒の視点からみた学び直しのために重要な点は、上述した通りです(2-6⑥参照)。
本節では、学び直しのために重要な点を、支援者の視点から再構成したいと思います。

本調査の結果からは、以下の6つが挙げられます。

①居場所をつくる

一般向け大人数指導塾での「うまくいかなかった理由」として挙げられていましたが、不登校・引きこもり経験者は同年代の人からの目が気になり、学習期間にうまく通えなくなってしまう場合があります(2-3⑥参照)。また、塾で初めて先生に合うときには、人が怖かったために非常に不安だった、という声もありました。

過去の経験から、塾での人間関係に不安感をもっていることに起因するのだと考えられます。そのため、支援者は「どれくらい宿題を出すのか」といったテクニカルな面よりも、まず塾を怖がらずに継続的に通ってもらえるような「居場所」をつくることが重要なのではと考えられます。

②生徒の焦りとうまく付き合い、一人ひとりのペースに合わせて学習指導をする

「このままだとヤバイ」「やり直したい」という焦りは、生徒が学び直す大きな原動力になっているようです。しかし、一方で今まで勉強をした経験があまりないからこそ、ブランクの期間が長かったからこそ、自分のペースで勉強できることが必要だと考える人もいます。「目標から逆算した時に生じる焦り」と「生徒の現状に合ったペース」はどちらかが重要なわけではなく、その両方が必要とされているのです。

確かに「学校機関から離れていたため、生活・学習のリズムを保つためにある程度のプレッシャーが必要とされている」という側面はあると思います(2-5⑤参照)。
しかし、様々な経験をしながらも学び直そうとする若者は、既に周りから明示的/暗示的を問わず、プレッシャーを受けている場合がほとんどです。基本的には生徒のペースに合わせて指導しつつ、時に生徒の焦りを沈めてあげたり、時には焦りを少しだけ刺激してあげたりする事が必要だと考えられます。

③授業のレベル・スピード・宿題量

若者が選んだ学習方法が、うまくいった/いかなかった理由として、授業が自分に合っていなかったというものが多く見られました。

具体的には、授業のレベル・スピード・宿題量全てです。これは、生徒が不登校・引

きこもり・ブランクなどを経験し、どれくらい勉強の習慣があるのか、どれくらい今までの勉強が定着しているかがバラバラである事に起因すると考える事ができます。

生徒一人ひとりに合わせて、レベル・スピード・宿題量等が適切か、常時注意を払う必要があります。

④自宅での学習

勉強を行うに当たって、学習支援機関に通っているか否かに関わらず、自宅学習は重要です。しかし、自宅学習だけの場合 1：モチベーションの維持、2：自分に合った勉強方法の把握、という点などから、学び直しがうまくいかなくて悩む様子が伺えます。また、生活費を稼ぐためか、アルバイトの時間が長くなってしまい、勉強に集中できないケースも見られました。

学習指導時には、生徒に合った内容の宿題を、勉強の仕方を細かく指示した上ででした方が良いでしょう。

⑤モチベーション

生徒のモチベーションを維持することは、学び直しの上で、非常に重要です。ただモチベーションの維持に最適な方法は、人に異なりますから、試行錯誤してみるしかありません。

ただ例えば、何によって勉強を続けられていますか(続けられましたか) という質問に対して、少なくない人が勉強への興味関心を挙げています(2-6⑥参照)。

勉強・学問を魅力的に思えるように授業をする、というのは生徒のモチベーションを保つのに役に立つ可能性があります。

⑥家族への働きかけ

周り（家族・友人・その他）の後押しが、勉強を続ける上で大きな力になった、と多くの人が述べています(2-6⑥参照)。生徒の友人に働きかけることは難しいかもしれませんが、保護者であれば、コンタクトを取る機会はあるかもしれません。

家族は学び直そうとする子ども・兄弟に対して、色々思うことがあるかもしれません。その際に、生徒の学び直しのために家族の言動・思いが向かうようにしてあげることも、一定程度であれば教育支援機関が出来るかも知れません。

例えば、家族の受験に対する不安を保護者会や面談を通じて解消してあげる事は、家族の生徒に対する理解を深め、受験に対する不安が生徒に向かうのを留める働きがあるかもしれません。

4-2. 他機関との連携

学び直しを希望する人の中には、過去に引きこもりなどを経験し、学習以外の面でもサポートが必要な場合があります。支援にあたっては、必要に応じて他機関と協働することは重要です。例えば、学習支援と並行した連携機関としては、フリースペースや医療機関などが考えられます。

① フリースペース

引きこもりなどを経験し人と交流することに苦手意識を持っている方の場合、以下の2つの理由により、フリースペースなどで家族以外の人と交流する機会を設けた方が良い場合があります。①学び直しのために塾/予備校に通学することに抵抗を覚える可能性がある、②受験合格後も、学校機関に継続的に通学するのに困難を抱える可能性があります。また、フリースペースで受験指導をしてもらえる場合や、塾/予備校がピクニックなどを通じて人と交流する機会を設けている場合なども存在します。

② 医療機関

学び直しを希望する人は、過去の経験によっては「うまく眠れない」等々メンタル面で課題を抱えている場合があります。その場合は、必要に応じて医療機関へ行く事を勧めることが重要となります。もし、医者などから学習時間等、勉強の仕方について指示が出た場合は、その指示に従った方が良いでしょう。

本調査報告書は「日本興亜おもいやりプログラム」の助成を受け、
特定非営利活動法人キズキが作成しました。